

「大学・社会人・地域の三者連携による里山と都会の情報コミュニケーション」

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学情報科学センター 公開日: 2010-03-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 川島, 高峰 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/7917

大学・社会人・地域の三者連携による 里山と都会の情報コミュニケーション

The Virtual & Real Communications between Depopulated Districts and Urban Areas
by co-operations of the University, Business Consultants, and the Community.

川 島 高 峰

Takane KAWASHIMA

Instructor of

Information Science Center, Meiji University 1-1 Kanda, Surugadai, Chiyoda-ku, Tokyo-to, Japan

Synopsis: This paper is a report of activation of Misakubo-cho, Shizuoka Prefecture, Japan, which was taken through information education from 2002. For students, their final goals are to consider alternative proposals about an activation way of the area, which faces decrease in population and aging, and to perform the presentations. This lesson is now developing into the trial to pursue the possibility that a university will function on a community and administration as an NPO type think-tank by cooperation with the exterior organizations.

Key words: community activation, Plan-Do-Check-Action, co-operations of the university with the exterior groups

序 NPO型シンクタンクを目指して

本論文は、2002年度から情報教育を通じて取り組んでいる静岡県水窪町の活性化に関する報告である。そして、これからここで報告することは、全てインターネットがなければ全く起こりえなかったことである。

筆者が水窪と関わりを持つようになったのは戦略経営研究会〔1〕が、水窪の活性化をテーマに取り上げたことによる。しかし、そもそも筆者がこの戦略経営研究会に加入したのは、同会が主催するメーリングリストへの参加による。

他方、学生にとってこの授業は過疎化・高齢化に直面する地域の活性化について対案を考え、これをプレゼンテーションで発表するというものである。明治大学・情報基礎論(和泉キャンパス、生田キャンパス)、和光大学・行政学の受講者がこれに参加した。

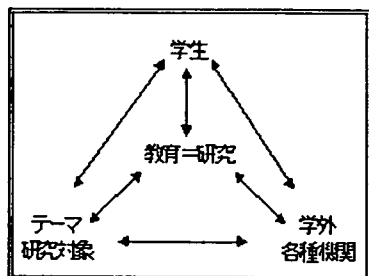
教育方法としてのこの取り組みの特徴は、学外の組織と連携を取っている点である。さらに大学が単なる教育・研究機関としてだけではなく、地域社会・行政に対しNPO型シンクタンクとして機能する可能性を、極めて現実的に追求している点に大きな特徴がある。

1. 教育手法の特徴

この取り組みでは、様々な特徴ある教育手法が試みられている。その基本理念は「開かれた大学教育」、「実社会への参画の糸口を授業の中に構築する」点にある〔2〕。

教員が個人で学生教育に必要なことの全てを請け負うことは、見方を変えれば、狭い教員個人の特定の世界観に学生を囲い込むことになりかねない。これを「閉ざされた教育」とすると、「開かれた教育」とは、外部と連携して学生を指導するシステムのことである。

図Ⅰ 開かれた大学教育



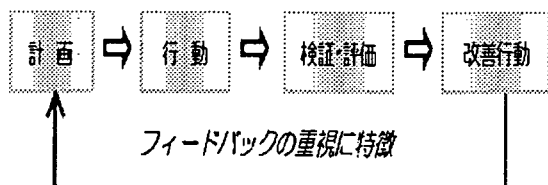
この取り組みには当初から学外のコンサルタント団体・戦略経営研究会、並びに水窪町関係者との提携・協力を得ている。今日、インターネットの普及により学内・学外の敷居は低くなった。さらに教室と教室外との境界も低くなった。これら外部との連携は専用の掲示板、メールリストを設けることで、容易に実現できるのである。

今ひとつの教育手法の特徴として評価手法の工夫が挙げられる。これには学生相互評価、そして行政学で知られる Plan・Do・Check・Action (PDCA)の手法を導入した〔3〕。

この授業では、学生が自らの成績評価を行う。プレゼンテーションに際しては、受講者全員が独創性、デザイン性、労力、発表態度の四項目についてそれぞれ五段階評価で採点を行い、その集計結果により成績が決められる。最高点となる5点、そして4点については、そのクラスの履修者数に応じて各自採点で使える回数に規制がある。これは採点表となるエクセル・シートにそのような規制処理を仕組んである。

次いで、PDCAだが、概念としては図Ⅱのサイクルを、開講中に何クールかできることが理想である。

図Ⅱ PCDAの展開



従来の大学講義は「シラバス→講義実施→試験・評価」を繰り返す、単年度毎の Plan・Do の連続に過ぎず、Check・Action の部分が極めて薄かった。学生には期末試験を経て「優・良・可・不可」といった単純化された評価(Check)がフィードバックされるに過ぎない。一度、期末試験の時期を過ぎてしまうと、その後、学生をフォローすることは現実的にも困難である。従って、よりよい授業とは開講中にどれだけ Check・Action を持ち込めるかということになる。これについては二つの Check・Action が行われた。

まず学生各自がテーマを絞り込む段階で必ず一回、個別指導を実施した。さらに学生の考えに対する評価・検証は、掲示板等を通じて学外からも行われた。

初年度はこれに止まったが、二年目(2003年度)からは、前年度の学生の作品を授業用の Web ページに掲載(氏名等を削除)し、前年度の学生課題を次年度の学生が Check して、自らの Action の参考とするという、PDCA 本来のサイクルに則った形態で授業をすすめていくことができた。

これ以外にも、

- ◆ 複数キャンパス間における授業統合
- ◆ 過疎地水窪との遠隔コミュニケーション
- ◆ 当該地域(北遠)間での連携の促進

等々、情報コミュニケーションが持つ様々な可能性を含んだ試みであったといえる。

第二の特徴は、大学と地域・学外団体との間での PDCA の展開である。学生提案そのものは、決して、実用性を持つものではない。しかし、折角、出されたアイデアをそのままにしておくのではなく、それは外部コンサル団体との提携、町の有志との交流を通じ、確実に活性化への試みの胎動となっている。それは選挙にさえ影響を与えたのである。

この展開にはいくつかの段階があった。①水窪の活性化をテーマとした(モチベーションの手段とした)情報教育の実施、②水窪町関係者への学生提案の紹介と町長選挙、③天野勝郎町長による第二期目の町政と 2003 年度の授業と

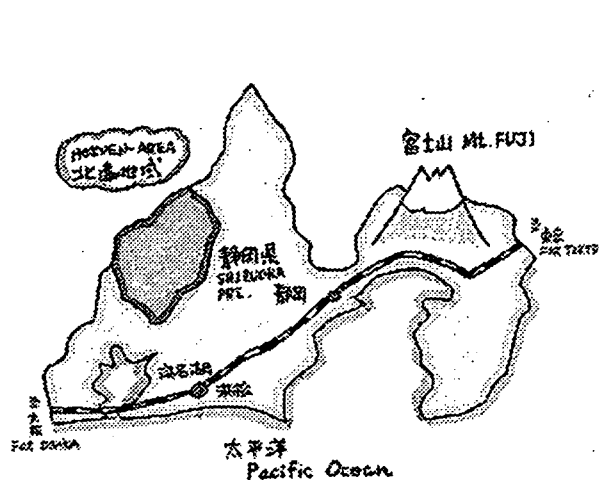
いう展開である。この展開の全てでインターネットの存在は決定的な役割、つまり、過疎地と都会の遠隔コミュニケーションであり、オフラインへの重要な契機となったのである。

2. 過疎の町・水窪と天竜町政

普通、「水窪」を正確に読める人はいない。殆どの人がミズクボと読む。「ミサクボ」が正しい。静岡県の北端に位置するこの町は兵越峠^{ヒョコトンネル}を挟んで信州南端の南信濃村と相対しており、強いて言えばこの二つの町村の間で毎年 10 月に行われる「峠の国盗り綱引き合戦」が有名である。

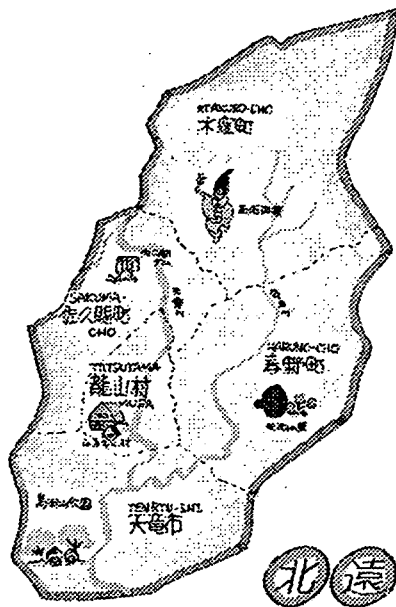
この綱引き合戦は勝った側が県境を一メートル相手方に変更するというものであり、静岡・長野の両県では毎年、その対戦が報道されている。

周辺の佐久間町、龍山村、春野町、天竜市の五市町村をあわせて北遠地方と呼んでいる。しかし、現在、浜松市が中心となり周辺 13 市町村、さらに 5 市町村のオブザーバーによる環浜名湖・政令指定都市構想の流れが加速している。合併の是非は住民に地域の行政と経済を考える契機となっている。



図は「北遠地区広域市町村圏事務組合」のページから同組合の了解を得て転載しています。

<http://www.enshu-net.or.jp/hokuen/>



2000 年度で人口が 3723 人。総面積 271.28 (km²) の町内は標高差が 1000m 以上あり、急峻な地形のため総面積に対する可住地面積は 6% に過ぎない。従って、総面積に対する人口密度は 14 人(市部は数千、大都市部では一万以上)となるが、可住地面積でみると 244 人となり、山間に突然、町が現われるという趣がある。経済・産業等の特徴については、戦略経営研究会第 27 回ミーティング、「地域活性化水窪町レポート」を添付したのでそちらを参考としていただきたい(資料①、茂木ノート)。

北遠地方は徳川時代、幕府天領となり天竜杉の

産地として有名であり、林業が産業の基盤であった。しかし、高度経済成長期以降、外材に押され国内杉の需要は低迷し、構造的な不況に陥った。

高齢化・過疎化に直面するこの町の唯一の産業が、公共事業であった。このため都会人の目から見ると極端な公共事業依存体質がある。例えば、同町内を走る飯田線の無人駅・小和田駅の前にはなぜか公園が造成されている。小和田雅子さんが皇太子と結婚した時に、この駅が(駅名の読みはコワダ)ちょっとしたブームになった。察するに、余りに整備がなされていないのでは格好がつかない、

ということで公園を造成したようだが、一過性のブームを口実に工事の発注をしたとも見える。実際、同駅で結婚式を挙げたカップルが一組あったようだが(この1件以外の例を筆者は知らない)、数千万の公共投資は、やはり無理があるのではないか。無人駅の前とはいえ、草刈などそれなりに維持費はかかるのである。

その他にも、標高差数百メートルの山頂に作られた児童公園などがあり、一体、どんな子供が遊びに行くのか、不可思議である。

一年に数ヶ月しか運用されない「カモシカと森の体験館」(総工費三億以上)、そして、満天の夜空には輝く星座を楽しむことができるこの山間の水窪に、なぜか立派なプラネタリウム付の教育会館がある。小学生188人、中学生124人(2000年度)のこの町に、なぜ、プラネタリウムの施設があるのかは都会人のコスト感覚からは理解し難い。実際、維持費の問題からか現在、プラネタリウム施設の運用は停止となっている。

これ以外にも数々の「箱モノ」があるが、圧巻は町の東南端、標高420メートルの山頂に再現された戦国の山城「高根城」である。高く見積もっても、せいぜい二億円以下と思われるこの構造物は、建材を全てヘリコプターや周辺の尾根から張ったロープで運び込まなければならなかったため、総工費は五億円以上になった。しかも、この高根城へのアクセスは、今日の観光客にとっても殆ど難攻不落である。

しかし、このようなことは日本の田舎では決して珍しいことではない。例えば、水窪の南隣の人口1247人の龍山村には、収容力約400名を持つ森林文化センターがある。座席は全て機械式で移動し、ホールの壁面に小さく畳み込まれる仕組みを持つ。これにより、バレーボールのコートが二面ほど取れそうな空間が出来上がるのだが、こんなことで驚いてはいけなない。このホールにはなんと全高10メートルはあろうかと思われるパイプオルガンが備え付けられているのである。一体、年に何回、弾かれているのだろうか。調律等の維持費を考えると、非常に理解に苦しむものがある。

それにしても、こんなことを繰り返していれば、町の財政が悪化するのとは当然である。しかし、現町長天野勝郎氏が登場するまでは公共事業に対す

る引き締めは行われなかった。天野勝郎氏は、1989年(平成元年)、水窪町町会議員に当選して以来、一貫して同町の公共事業の無駄を指摘し続け、1997年(平成9年)には同町議会副議長に就任。1999年(平成11年)には改革派として町長に就任したが、当面、天野町政は財政引締めを余儀なくされ、独自政策を行いたくても余力がない実情にあった。

茂木ノートにもあるように、水窪は都会からのアクセスが悪く、活性化の事例としては最悪の部類に入るように思われるが、このような無名の過疎地は日本に無数にあるといえる(日本の自治体約3200のうち過疎の自治体は約1200)。

このような地域であるが、しかし、水窪の位置には戦略性がある。この南信州、北部遠州、奥三河の三県境界が接する地方を、三信遠地方と総称する。この山深い地域は古来から天竜川を境として東西文化を分断し、そして、河により止められた文化の流れは、この複雑な山峡を持つ地域に滞留・堆積し、東西文化の古層を形成してきたのである。つまり、この地域では歴史的に日本の東西文化、それぞれの特徴を観察することができるのである。

その名残は今日のマーケティングにおいても静岡県が、言わばインデックスとされ東京・大阪に拠点を置く多くの企業が、静岡にアンテナ・ショップとして営業所を構えることに現れている。静岡で成功することは全国で成功する可能性を持つと考えられている。

また、あまたある無駄なハコ物も、考え方を考えれば、インフラは整備済みであり、あとはやる気とソフトだけと思えば(というか、そう割り切るしかない)、可能性はある。(勿論、本来、実効性ある用途が明確に定義されてから作られるべきものではあるが....)。

3. これまでの歩み

戦略経営研究会が水窪町の活性化を主題として取り上げたのは、同会が設立された翌年1999年のことであった。この年、改革派として当選した天野町長の子息・天野勝博氏が同会の会員であったことから、その後、同会では繰り返し水窪の活性化を主題としてとりあげている。

この中で同会が支援をした事業が水窪葬祭であ

る。詳しくは、茂木ノート・平澤ノートに譲るが、基本的に同町内の葬祭業務を域外ではなく域内の業者が扱うことでお金の域内循環を意図したものであった。勿論、町民の死亡という人口減少が収益の起因なので、これにより活性化がすすむわけではない。しかし、実はこの事業が重要な鍵となった。同事業の中心は町長の子息・天野勝博氏と、その友人・平澤裕一氏である。彼らは葬祭という業務により町内の人間関係により深く通じるようになったからである。そして、これが大学と提携していく上での基本的な人脈となった。

2002年6月1日、戦略研・第27回のミーティングに際し、天竜より天野氏の友人・竹内崇士氏(天竜青年会議所役員)が参加し、この取り組みは水窪関係者とのつながりばかりではなく、さらに北遠に拡大された人脈の中で展開する基盤が出来た。しかし、この年は学生のプレゼンテーションを、水窪関係者の一部に見せるにとどまり、大きな変化への契機はまだ見られなかった。

決定的な転機は、2003年4月の統一地方選挙により訪れた。同町の選挙は常に投票率が90%前後を越え、読売新聞浜松支局の観測によれば、選挙戦の熾烈さは全国随一の土地柄である。

合併を目前に町の施策を問うこの選挙で町長選挙と町議会選挙が行われたのである。現職の天野氏に合い対したのは元町長の伊藤氏であった。かつて在職時、ハコ物行政を繰り返してきた伊藤陣営は、この選挙でも公共事業を口にして選挙戦に出た。対する天野陣営は改革を主張、「革命期の町づくり」を唱え、「行政の運営はより民間会社の経営的な手法を必要としている」と打ち出した。

そして、「公約4」として、「交流と連携による新しい町づくり」をあげ、

三遠南信地域をはじめ他市町村との交流をさらに深めます。地域活性化の成功の秘訣は大都市「東京」と繋がることであり、東京の「杉並区」との交流事業を本格化すると同時に東京など都市部の学生とコミュニケーションを持ち、新しい町づくりを推進します。

と掲げたのである。天野町長候補の選挙事務所の壁一面には学生のパワーポイントをカラーで印刷したものが所狭しと張られ、鮮明な政策の主

張となった。しかし、選挙戦の大勢は、最後の最後まで判明しがたかった。結局、投票率にして91.96%、得票は天野勝博氏が1431票、対立候補は1340票。わずか91票差の激戦であった。

この選挙戦を通じて、情報教育を通じて学生が水窪地域について勉強しているらしいということが、少しは浸透したようである。また、この選挙戦ではインターネットを通じて授業に協力していた水窪葬祭の平澤裕一氏が、町議に立候補、当選を果たした。

つまり、町の行政のトップと、議会内に大きな足がかりを得たのである。

2003年度の授業はこのような背景をもとに始められた。この時期、最も大きな出来事は、6月7日、明治大学リパティタワーにて水窪町長を招き東京・水窪シンポジウムを、筆者と戦略経営研究会の共催で行ったことである。

当日の参加者は約50名。東京近県・水窪関係者を始め、長野・岡山・兵庫・大阪などからも参加者があった。このうち受講生を含めた大学生は13名であり、他に大学院生1名、筆者と和田悟政治経済学部助教授に参加を頂いた。水窪関係では天野勝博町長並びに子息の勝博氏、平澤裕一町議、静岡県議会議員柏木健氏に来ていただき、さらに社会人の職種は、松下政経塾関係者3名、自治体職員・4名、司法書士・行政書士等の有資格者のコンサルタント系を中心にタイポグラフィやバー経営者など、実に多彩な顔ぶれとなった。

この催しには、読売新聞浜松支局長・池永尚嗣氏からも活性化のための提案(資料③「釣り人が見た水窪」)を寄せていただき、さらに同紙静岡県版に事前・事後報道をしていただいた(資料②)。

このシンポジウムの最大の特徴は提携した戦略経営研究会が行う手法にあった。それはただ単に人の話を聞くだけで終わるようなシンポジウムにはしない、という彼らのポリシーによって貫かれた。すなわち、参会した人を約10名程度にグルーピングし、ディスカッションを行うことを中心に行われた。各グループの議事の書き起こしを資料として添付してあるが(資料⑤)、Aグループは都市と里山の交流観光を、Bグループは林業を、Cグループは水窪葬祭の平澤氏を中心に、Dグループは読売新聞の池永氏の提案を受け溪流釣りを中心に話し合った。

4. 学生の提案と参画をどう評価するか

「実社会への参画の糸口を授業の中に構築する」という教育理念から見た場合、現状における水窪活性化に対する学生参画は、はどう評価されているだろうか、そして、これをどう評価すべきだろうか。

一般に、地元で地域活性化の問題に取り組む人間にとっては、非常に歓迎されている。そのことは、東京・水窪シンポジウムにおける平澤裕一氏の講演にも現れている(資料④)。具体的に何かの参考になったということよりは、改革や何かを始めようとする雰囲気を生み出すことに大きく寄与している[4]。

提案の中には、事業化の対象、もしくはその候補となっているものもある。事業化という次元から対比すれば、学生の提案は「思いつき」に過ぎず、現場でさらに仔細に検討しなければならないことは多い。しかし、学生報告は、今、都会が里山に求めていることを集約的に表したものと言える。抽象化すると、

- ◆ 提案は里山志向の現われ。このニーズを無視した過疎地の活性化はあり得ない
- ◆ 一発逆転型を提案した学生は一人もいない。里山の大型開発は都会の若者のニーズに沿わない

ということになる。しかし、このことから逆に、学生たちと水窪地域住民との間での認識のギャップが三点浮かび上がった。

第一に、里山の住民には、里山が都会の住民にとって持つ価値が理解されておらず、依然、公共事業依存の発想から抜けられない部分があるのである。また、「いい山には、良いガイドがいる」と言うが、意外と地域の自然や観光資源の素晴らしさを、外部の人間に説明できる人材が、当の里山にはいないものである。

次に、この試みにより都会の若者に過疎地を考えることの面白さを認識させることができた。都市ではできない試行錯誤が里山にはある。しかし、過疎地の住民がその面白みを共有しているわけではない。それは地域住民にとって過疎の困難とは、日々、直面する現実だからである。

そして、第三に、このような取り組みでは、過疎地のインターネット・ユーザの拡大と情報インフラの整備は必須の問題である(水窪は本年 2003 年になって ADSL 回線が開通したが、例えば隣の春

野町は未だ不通である)。しかし、これが必須であることの認識は、当の過疎地の住民の間でよりも、これに関わろうとする都市住民の間の方が強い。

5. インターンシップ構想へ

毎年、9 月中旬、北遠最大規模の祭りが水窪で行われる。この時ばかりは、町の人口が1万人を超え、戦前から続く仮装行列が町内をねり歩き、各地区の屋台が朝から夜まで引き回され、大変な賑わいとなる。この水窪まつりの仮装行列に、今年、履修生によるチームが正式参加した。審査は残念な結果に終わったが、この件について教員の側から何かの働きかけをしたことはなく、全く学生による自主的な参加となった。

このように学生にとってこの取り組みはモチベーションの高揚に極めて効果があったと言えるだろう。資料⑥に受講生の感想を添付した。負荷は大きかったようだが、No Pain, No Gain を体験させることこそ、大学教育の醍醐味である。

しかし、学生の祭りへの参加は、自主的であれ物見遊山に過ぎず、それだけで評価の対象とすることはできない。今後、このような交流を里山インターンシップとして教育の中に位置づけていくことが必要である。

この数年、文部科学省は大学に対してインターンシップの実施を政策誘導してきた。インターンシップとは同省の定義に従うと「在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」と定義されている。近年、就職後、数年、もしくは一年以内に企業を退職する若者が増大してきたため、企業と学生のマッチングを適切に行う必要が指摘されてきた。これに応えたのがこの施策ということになる。

文部科学省によるこの定義はキャリア志向が強い点に特徴があるが、それがまた欠点でもある。大学教育は学生の生涯に非職業的な面で多大な価値を与えている。こうした面も考慮すると、インターンシップは他にもメリットがある。私見でこれをより広義に解釈すると、

学外の組織・個人による実社会の活動を学生が体験学習することを大学教育の一環に取り入れ単位認定するものであり、大学生活に対する学生のモチベーションを高めることを目的とする

キャリア志向で定義されたインターンシップで

は、企業が専らの対象となってしまうが、むしろ、NGO・NPO、そして地域組織のような場での活動に、教育上、より意味があるのではないだろうか。勿論、国土交通省など、既存の事例に里山とのインターンシップがないわけではない。しかし、農村・地方・田舎を体験してもらう、というのが殆どである。

田舎・都会交流の文化的意味を持つとはいえ、単に受け入れる側が「お客様をお迎えする」だけであり、意地悪く言えば、都会の人間の里山趣味を満たしているに過ぎない。里山の住民にとってどんな意味があるのか、里山にとって、インターンシップにどんなニーズの可能性があるのか、という視点を掘り起こしてゆく必要がある。

そうした掘り起こし作業の一過程として、2003年8月26日、筆者は天竜青年会議所の招きによる講演で、具体的に次の二つの提言を行ってきた。

- ① 臨時事業に対する人手不足の対応
- ② 都会での調査代行

①は、高齢化・過疎化により人手が不足がちな地域イベントに学生を助っ人として参加させるというものである。

②は、地域物産が都会の店頭でどのような形(他産地との競合、価格、売られ方等)で消費者と接しているか?あるいは、消費動向調査。さらに地域活性に関する都市部での各種催し、研究会等に代理出席しこれを取材・報告させるというものである。これら具体例を抽象化して定義すると、

過疎地と都市部大学のインターンシップとは、大学教育を通じて、地方が調査・研究機関を都心を持つことである。

従って、単なる体験学習ではなく、少なくとも、

1. 事前学習
 - (ア) 対教員による指導
 - (イ) 社会常識・危機管理の指導
 - (ウ) 受け入れ先のニーズの学習
 - (エ) 事前報告(行動計画)作成
2. 現地体験
 - (ア) 活動日誌作成
 - (イ) 中間報告
 - (ウ) 受入れ先による現地での学生評価
3. 事後報告
 - (ア) 事後報告に対する受入れ先・教員評価
 - (イ) 評価に対する改善報告
 - (ウ) 学生による受入れ先に対する提言

(エ) 学生による体験についてのマニュアル作成

と、これだけのプロセスがなければ、大学で単位認定する意味はないだろう。

現在、筆者の提案も受けて水窪町行政当局との間でこのような学生交流について里山インターンシップ事業を実現しようという動きがある。これは、構造特区申請のための研究会の立ち上げになっており、来年度以降の展開が注目される。また、隣の春野町でも受け皿作りのための話し合いが始まりつつある。

むすびにかえて ー故郷の創造へー

この夏、フィールド調査で訪れた香川県九竜市の商店街で大学人として全く返答に窮した問いに遭遇した。ある店主がこう言うのである。

後継ぎを都会の大学に取られた。今、東京で就職して三年目になるがまだ、仕送りをしている。東京の物価では、とても満足に喰えるだけの給与がない。ここいらではそんな話がほうぼうである。三十過ぎて都会から戻って(リストラ?)ぶらぶらしているのもある。一体、地方から東京の大学に進学することにどんな意味があるのか?

若ければ都会に出て自分を試してみたいと思うものである。それを否定しない。問題は、そのお試しが、一度やったら二度と地域に戻れなくなるような社会構造を、今の日本が持ってしまう点ではないか。人は、戻ってくるために旅をするのであり、戻れなくなるのは単なる放浪である。今日の都会は、その意味で、故郷喪失者の集まりであり、これは間違いなく亡国のイメージを先取りする姿なのではないか。

私は店主の言葉にハッとしながら、そんな思いが脳裏をよぎった。

おおよそ転換期にはかならず都市部と村落との関係が見直されるものである。かの荻生徂徠も、「人を地につける方法」を述べ、山縣有朋は「地方名望家論」を、そして、日露戦後期には地方改良運動があった。昭和恐慌は村落の問題解決を外地に求め、敗戦後の農地解放に際しても都市部と農村部の人口配置の転換をせよという議論がよく

見られた。

しかし、文部省が唱歌「ふるさと」を制定したときから、既に後戻りできないような流れができていたのではないだろうか。

「いかにいます ちち、はは」

「つつがなしや ともがき」と、望郷と郷愁の想いを込めたあの唱歌は、小学生が歌うには余りと言えば大人びた内容である。つまり、大正 12 年(1923 年)、この唱歌が尋常小学校向けに制定された時点で、既に「ふるさと」は出てゆくもの、遠くはなれて回想するものという観念が、小学生すら含めた社会一般の共通認識となっていたのである。

地方から人材を集めこれを地域に還す、ということ、近代日本の教育は余りしてこなかったのではないだろうか。

高度成長期、池田勇人首相は、国造りは人造りであると述べ、その政権下の中教審答申から出てきたのが『期待される人間像』というパンフレットであった。それは「クニ」というものを「都会」でイメージしたものに他ならず、都会という産業社会が必要とする人材を、文部省は期待していたのである。その果実(経済成長)もあり、全てを否定するつもりはない。

しかし、今の日本は、この十年、改革、改革といいながらこの点を論じていない。利益は誘導しても、人材の誘導をしていない。

他方、近年、田舎で何かをやりたいと考えている中高年の都会人は意外と多く、田舎暮らしをテーマとした書籍が増えている。今後、少子化に伴う社会人入学の枠の拡大、高齢化に伴う社会人・退職者層における大学入学希望者の拡大を考慮すると今後、大学は U J I ターンの拠点となり得る。

地方における相次ぐテーマパークの破綻は、都会と地方のニーズのギャップを象徴している。これからの観光は中高年を中心に中期滞在型のものが増えるということが言われる。たとえ、それが生まれ出ずる地への回帰ではなくとも、要は、私だけの里山を創造することが、余暇の新しい形として定着すれば、過疎地のあり方も随分と変わるのではないだろうか。別荘ライフが、一部の階層だけのものだった時代は終わったのである。

近年、これをマルチハビテーション(住居の複数化)と呼んでいるが[5]、フランスではこれをバカンスと呼ぶらしい。当面、筆者はこれを里山と都会の情報コミュニケーションとすることにしよう。

注 記

- [1] 1998 年、明治大学出身者の有資格者(司法書士・行政書士・公認会計士・社会保険労務士等の所謂コンサルタント業)を中心に設立。単なる異業種交流を超え、企業および国家の「戦略」について研究し、実践することを目指している。代表は経営コンサルタントの菊池慎一郎氏。ホームページは、
<http://www5a.biglobe.ne.jp/~senryaku/home5/>
- [2] 拙稿「情報教育を通じた地域(静岡県水窪町)活性化への学生参画 ―ネットワークによる NPO 型シンクタンクの試み―」、平成 14 年度・文部科学省『情報処理研究集会論文集』、641-644 頁、2002 年 10 月 25 日、同研究会にて報告。
- [3] 拙稿「大学講義の Plan-Do-Check-Action」、平成 15 年度・私立大学情報教育協会「大学情報化全国大会」、同論文集、178-179 頁、2003 年 9 月 10 日、同研究会にて報告。
- [4] 学生報告、2002 年度、2003 年度の学生報告は、下記 URL で見れる。
<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~shokason/gakusei-teian/gakusei-teian03.htm>
- [5] 総務省による「過疎地域におけるマルチハビテーションに関する調査」などが、その最近の傾向を伝える代表的な調査である。
<http://www.soumu.go.jp/c-gyousei/2001/ka-so/chosa.html>

本稿、作成に際し、実に多くの方から助力を頂いた。ここに改めてお礼を申上げる。

また、シンポジウムの議事書き起こしについては、A 班・田村良子氏、B 班・茂木正光氏、C 班・植村公香氏、D 班・佐藤良太氏の努力によって完成した。深く感謝を申し上げる次第である。

地域活性化水窪町レポート

戦略経営研究会 27thミーティング

茂木 正光(司法書士・行政書士)

2002年6月1日

1) ”地域活性化って?～水窪町の場合～”

概要は、地域活性化って、よく言われていますが、じゃあ実際その「地域」では、何が行なわれて、何が行なわれていないのでしょうか。そして、「地域」の現状・問題点を認識し、「地域」の少なくとも「独立・循環したシステム」を確立するためには・・・でした。今回は、当会メンバー・天野さん（父上が町長）の住む、山間交通不便・主産業林業不振・高齢者比率高というトリプルパンチの水窪町（静岡）をケースとしました。

<http://www.enshu-net.or.jp/hokuen/index.html>

さて、”地域活性化って?～水窪町の場合～”の茂木の発言となりまして、大筋としては、

- ①資料から水窪町のイメージをつけてもらう、
- ②現状認識から問題点を抽出、
- ③天野さんの水窪での葬儀ベンチャー立上げ、
- ④水窪町における地域活性化とは。

（随時、発表の後、ディスカッションとなりました）
まず、①資料から水窪のイメージをつけてもらうとして、

「自然的特性」

静岡県西北端に位置。長野県境・愛知県境に接する。林野率 94.2%。町内に 2000m級の山も存在。そして、わずかな河岸段丘や、河川に沿った急峻な傾斜地に道路が開かれ、集落が点在している。中心地（集落集積地）のイメージは、Vの字の底って感じです。

「歴史的特性」

縄文・弥生時代から、集落は存在していた。歴史資料に初めに現れるのは、南北朝時代の後醍醐天皇の皇子が逃れてきたとの記述。また、武田信玄による、徳川家康（浜松）攻略のための進軍ルートとなる。伝統芸能として、「西浦田楽」というものがあります。

「人口特性」

人口の社会動態に大きな影響を与えた要因としては、昭和 31 年佐久間ダム完成、昭和 44 年水窪ダム完成などの地域開発における工事等により、一時的には多くの工事関係者の流入現象がもたらされたが、むしろ工事終了後における大量流出に拍車をかける結果となった。

人口規模の推移

S 5 年	S 30 年	S 55 年	H 12 年	H 24 年
7080 人	10947 人	5803 人	3723 人	2651 人
(ピーク時)				

現在、年間 100 人のペースで、人口が減少。新規学卒者を中心とした若年齢層の流出が続く。過疎化・少子化・高齢化の進行。労働力の低下とともに地域社会の活力が奪われている。

人口構成比の推移

	H7 年	H12 年	H24 年
0～14 才	14.2%	11.3%	3.8%
15～64 才	57.3%	53.5%	48.8%
65 才～	28.5%	35.2%	47.4%

なお、住民の生活単位としては、自治区（集落コミュニティ）ごととなっている。連帯意識により地域共同社会が構成されている。小畑・神原・水窪・向市場の 4 自治区が連なる 2714 人の水窪地区の中心部は、町内最大の人口集積地であり、生活様式の多様化や商店街の形成など一部都市的な機能を有している。一方、小規模集落としては、14 人、65 才以上 78.57%という、門谷地区などがある。このような小規模集落では、地域共同社会としての自治機能やコミュニティ機能を失いつつあり、集落維持の限界点が迫っている。

「経済的特性」

昭和 30 年代後半からの急速な社会経済の発展が町内の若い労働力の都市部への流出を招いた。

産業別就業者人口比率

	S 35 年	H 7 年
第 1 次	40.7%	10.4%
第 2 次	27.2%	46.6%
第 3 次	32.1%	43.0%

第 1 次産業「林業」

古くからの代表的な基幹産業であったが、地理地形的な条件の劣悪性、経営基盤の小規模零細性、機械化の困難制など生活環境条件の厳しさと、主要生産物である木材及び茶の価格の低迷などの要因により、長期的に不振。（外材のほうが高く、水窪のスギはブランド力もない。また、森を経営するほど赤字が出る）

第2次産業「製材業、自動車・電機部品、建設業」

労働力確保の難しさや消費地と遠隔におかれている地理的条件もあって小規模零細経営が中心となっている。

製材業；長引く木材価格の低迷の影響を受けている。

建設業；受注量の減少と就業者の高齢化。

製造業；景気低迷が続く中で閉鎖や撤退する工場がみられる。

第3次産業「商業」

飲料品や衣服、雑貨などの日常生活必需品の販売を主体とする零細な個人経営がほとんどである（大手コンビニなども、その地理的な条件の悪さなどから進出していない）。人口減少による地元購買力の低下、生活圏の拡大による都市部への購買力の流出などにより、厳しい経営状況を迫られている。

ただし、小畑・神原・水窪・向市場の4自治区が連なる2714人の水窪地区の中心部は、町内最大の人口集積地であり、商店街が形成されている。このため、消費購買において、37.6%が町内にて購入（それ以外は、浜松市、浜北市、天竜市などにて購入）。また、隣町・佐久間町からの購入者がけっこういる。なお、通勤圏として就業者2006人において、自宅22.7%、町内通勤63.5%、町外通勤13.8%。

「交通特性」

- ・ JR飯田線（愛知県豊橋～長野県飯田；1時間に1本か2本）
- ・ JR東海バス（水窪～天竜～浜松；ただし、本年中に廃止の可能性）
- ・ 国道152号線（飯田～水窪～天竜～浜松）

上記3つの交通手段しかないといえる。古くは、飯田～水窪～天竜～浜松は、山と海をつなぐルートとして、つながりは盛んであったが、現在、飯田～水窪のルートの交通量は少なくなっている。（水窪が、国道152号の事実上の”終点”となっている）・・・なお、三遠南信自動車道の構想が存在する。たとえば、東京から水窪に行こうとすると、新幹線で浜松まで2時間。遠州鉄道に乗り換えて、西鹿島まで、40分。そこから、車で2時間弱というところです。

ここまでで、参加者からは、

- ・ 「かなり悪い状況とは考えてきたが、ここまでとは・・・」
- ・ 「かりに、これが企業であれば、撤退をしなくてはならない」（ごく単純に費用対効果で考えるのならば）。
- ・ 「地域活性化よりは、いかに中央から税金を分捕るか（この地域への配分を増やさせるか）しかないのでは？」

との発言がありました。

「行政組織」・・・

町役場職員数 87人

一般職員 68人、教育関係 13人など。

一般職員内訳

総務 21、税務 5、民生 6、衛生 12、農林水産 14、土木 7

同一規模の町の平均値よりも、職員数は若干多め（町の雇用媒体としては、最大と思われる）。とくに、農林水産、衛生分野が多い。

なお、町議会議員は11名（ちなみに、東京板橋区は、約50万人の人口に対して約50人）。

財政（平成11年度）

歳入 39.4億円

地方税 3.4、地方交付税 19.7 （億円）

歳出 37.1億円

人件費 7.4、公共事業 13.0、農林水産 8.6 （億円）

同一規模の町の平均値を上回っている。町債は、35.3億円。なお、公債費負担比率15.9%（15%が警戒ライン）、町債、35.3億円。なお、町の収入としては、年金が重要。年金収入13億円。誘致企業給与20億円。建設業12億円。

公共設備

公共下水道事業の立遅れ。これに対して、小学校・公民館などの文教施設や集会施設は充分整備されているが、対象人数に比してかなり多いため、将来にわたる施設の運営・維持管理に要する経費が問題となる。

次いで、②現状認識から問題点の抽出、茂木より

- 「現在の国の財政状況から、地方交付金の削減が考えられる。水窪町の財政状況に当然影響が出る。また、町の収入としての、年金にしても、先行き不透明である」
- 「住民数のこれ以降、増加は考えられないのではないか？」
- 「なにより、若年層の流出に伴う、少子化は止まらないのではないか？」（町は、Uターン・Iターンのために補助金を出す制度を持っていますが、ほとんど機能していない）。
- 「産業としても、1次産業の林業が上向くとは考えられず、2次産業の製造業は、製造業の空洞化にもあるようにあえて水窪町に進出するとは考えられず、また、建設業にしても、公共事業費の削減は避けられない」
- 「3次産業の商業については、そもそも零細の商店ばかりなので、コスト的に経営の継続は可能であろうが、人口の減少に伴う、購買数の減少が起きている」

参加者より、

- 「町の利害構造の複雑さもうかがいしれる」
- 「閉鎖的な地域であり（自然的要素や交通の要素以外でも）、また、住民は、それでも現状生活は可能であるから、無気力となっている」参加者（静岡・天竜在住）

上記のような問題点の抽出に対して、参加者より、

- 「たとえば、福島県のある山村では、隣接の都市との交流、また国際的な交流により、活性化をはかっている。なにより、文化的な要素での交流が注目される」
- 「財源・財政の地域への移譲を進めるべき」
- 「行政評価により、住民の満足であったり、不採算部門の洗い出しが必要」
- 「戦略として、ニーズ・カスタマー・テクノロジーを考えるべき・ニーズとは、どうして水窪なのか？カスタマーとは、ターゲット・顧客。テクノロジーとは、顧客ニーズを満たすために何ができるか？」菊池氏（戦略経営研究会代表）

③天野さんの葬儀ベンチャー立上げについて

ここで、茂木より、今回のディスカッションの方向性として、「地域における”独立”と”循環”」が必要ではないかとの発言がありました。すなわち、

- 「過疎・少子・高齢であっても、地域が持続的に存在できる」
- 「その存続のために、地域における経済のサークルの確立。また都市との交流」

が必要であるとのこと。さらに、茂木より、水窪での「地域活性化」のためともなる、戦略研メンバー・天野さんによる、「葬儀ベンチャー立上げ」の発表がありました。

従来水窪では、葬儀の際、農協に依頼することがほとんどであったが、農協は、葬儀関係の商品（香典返しなど）を、水窪ではなく、他の地域より購入していた。これでは、水窪の資産が他の地域へと流れることとなる。そこで、「冠婚葬祭業を営み、顧客（地域住民）と地域社会と会社の幸福の最大化を図る」との経営理念から、「地元の地元による地元のための葬儀屋」の立上げとなった。そして、葬儀関係の商品は、上記の水窪の商店街からの購入を行っている。

開業して半年足らずであるが、町の葬儀・法要のシェアの30%を占めたとのこと。また、町民にも、好評であるとのこと。さらに、現在、天野さんも含めて3人での事業であるが、忙しくなってきたので、雇用（アルバイトながら）も検討中とのこと。

④水窪町における地域活性化とは

といったような、天野さんのビジネスは、水窪町に

おける活性化の一つの指針となるのではないかと、すなわち、

- 「住民意識の変革は難しいことである。しかしながら、誰かが先頭に立って行動を起こし、これについてくる人々が、徐々に増えていくというところからなのではないか？」
- 「サービス産業への着目が重要ではないか？若年層を労働力としなくてもこなさせることから」「町の中で、町のお金が循環するという仕組みを作っている」

といった点がすばらしいとの「天野さんの葬儀ベンチャー」に対する茂木の発表でした。

また、「水窪町における観光業」という茂木からの提案がありました。「自立する地域」（ぎょうせい）より、「高齢者の生きがいづくりと観光」との愛知県足助町のサンプルをまず紹介しました。

過疎地域・足助町の地域づくりは、行政・住民・観光協会などが連携をとりつつ、高齢者対策や地域文化の保存・継承という地域課題の解決を観光を生かしながら行ってきた点に特徴。

また、観光資源として、「山・森・川」「水窪祭り」「国盗り綱引き」「シカ・イノシシ・栃餅・しいたけ・そば」、そして、「民話」といったものが考えられる、と。問題点は、

水窪町は、観光施設として、「小和田公園」「カモシカ観察施設」「水窪民族資料館」など（ハコモノ）に投資をしたが、どれも、経営的に破綻していることから、住民すら観光事業に懐疑的。また、なによりも、住民は「水窪は、な〜んもないところ〜」と。

さらに、観光事業は、

- 1次産業的な、天候・季節の変化、
- 2次産業的な、施設など先行投資、
- 3次産業的な、労働集約型からくる人件費

といったリスクを負い、PR活動を必要とする。

しかしながら、水窪に4度ほどお邪魔している、茂木としては、「そのなにもないところ、また、あまりにも田舎であることが、都市の住民的に、すばらしく、ノスタルジアを誘う」との、個人的意見。

そこで、外部との交流による刺激、また、外部の人間に水窪の価値を再評価してもらい、ハードよりもソフトを重視し、そして、高齢者のいきがいとなる装置と考え（雇用とまではいかないまでも）での、観光事業はありうるのではないかと、茂木の提言でした。

また、参加者より、

- 「隔離された地形であれば、VIPのための機密性・安全性の高い静養地となるのではないかと？」
- 「閉鎖された購買圏の存在から、地域通貨の導入

に向いているのではないかと」

というような感じで、あつという間の3時間でした。そして、参加者の間で、「水窪活性化メーリングの立上げ」と、「水窪ツアー」（実際にどんな状況かみてみよう）のやり取りがありました。

追加補足・・・「市町村合併」について

現在、水窪町においては、隣町の佐久間町との合併のお話があります。水窪住民に言わせると、水窪が派手で、佐久間が地味とか。佐久間町は、もともと「昭和の大合併」でできた町なので、6000人という人口です（ただし、年間100人ぐらいの減少が続いています）。佐久間町には、人口の中央集積地と水窪町と比べると呼べる程のものもなくまた、各地区ごとが別々の連帯・分科を持っているとのこと。佐久間町には、公共施設として、「県立佐久間高校」と、「県立佐久間病院」が存在します。

高校は、水窪町からの中学卒業のほとんどを吸収し、病院は、水窪町で入院の事態のときは、ここだそうです。また、佐久間町には、商店街も水窪町に比べると小規模であるので、佐久間町から水窪町への購買者が多いとのこと。逆に、水窪町から佐久間町への購買者はほとんどいないとのこと。このような諸点から、地域としての近似性も高く、相互補完的でもあるなどとして、「合併調査研究会」が設けられています。この調査研究会は、行財政の面で

メリット

- ・合併特例法による国県の財政支援（この恩恵は10年ほど）
- ・生活環境基盤設備や道路整備につき、市町村合併支援プランの支援
- ・職員の減員。議員の減員。

デメリット

- ・戸籍。印鑑証明発行など電算システム統一化など合併に伴う新たな行政需要の発生が見込まれる
- ・税や料金など住民負担水準の軽減（住民にメリット）
- ・補助金や奨励金など給付水準の向上（住民にメリット）

合併により、両町の「負担」の軽いほう、「給付」の厚いほうが選ばれます。なお、2005年3月が、財政支援策を盛り込んだ市町村合併特例法の期限となっています。

「教育」

水窪町は、中学校まで。高校は、佐久間町の県立高校へ進学がほとんど。小中学校は、学年1クラス。

「住民の貯蓄率・資産状況」

（天野さんより取材）

磐田信用金庫の職員に聞くと貯蓄額が他の地域に比べて多いらしいね。人口少ないのに。山の景気がいい

頃にちまちま貯めたのかな。年金が、町の収入としては重要。・・・年金収入13億円。誘致企業給与20億円。建設業12億円。金融機関としては、磐田信用金庫・支店、農協、郵便局のみ。

「観光事業の現状」

（天野さんから取材）

正確にはわかんないけど、いまところ国道152号線のどん詰まりって感じで、水窪町に用事がある人が来ているって感じかな。しかし、152号線の悪路（一部不開通のため林道）を長野県方面へ抜けて水窪町と県境の南信濃村に観光に行く人が最近多い。というのはモッチも行ったとおり温泉が2年前にできたんだ村営で結構いい温泉で源泉も42度で出ているらしい冗談で、水窪にも温泉作れ、なんていう人もいるが隣にできているのに作ったら、少ないソバの奪い合いでダメだよな。観光で何とかするのは難しいよね

考えられる観光資源

- ・山・森・川
- ・釣り（アユ・アマゴ・ワカサギ）
- ・山王峽
- ・高根城址
- ・池の平
- ・西浦田楽
- ・水窪祭り
- ・国盗り綱引き
- ・ニホンザル・カモシカ・キツネ・タヌキ・ツキノワグマ
- ・栃もち・こんにやく・しいたけ・そば
- ・民話

そもそも、街道筋の宿場として繁盛していたところであり、「遠野」的要素があるのではないかと。なお、観光施設として町が投資した、「小和田公園」「カモシカ観察施設」「旧信州街道改修」「民族資料館」は、どれも、経営的に破綻しているとのこと。

「意識」（住民、行政組織それぞれ、現状と将来への）（天野さんへの取材）「あと、町のこれからを考えてる人って、どのぐらい？どんな感じ？若手は？」、「個人的な感想として、田舎には人材が少ないと思うけど少なくとも、近隣の佐久間町や天竜市に比べると熱心な若い奴が少しはいると思うよ。最近冷めてる奴っているもん。」（茂木私見）・・・北遠最大の水窪祭りなど、青年団イベントでの共通経験が、影響しているのか？

参考文献

- 「町おこしの経営学」 三井物産業務部ニューファーム 21 チーム（編）、東洋経済新報社
- 「自立する地域」 日本政策投資銀行地域企画チーム（編著）、ぎょうせい

● 事前報道『読売新聞』遠州版、2003年6月6日付

(金曜日)

言説

登壇

衆議

県民

12 S 遠州

授業でアイデア提案 ネット通し意見続々

水窪町の活性化
知恵絞る大学生

東京の大学生たちが、「水窪町の活性化」に知恵を絞っている。高齢化と過疎化に悩む遠州最北端の町、水窪。この山里を授業のテーマにして町おこし策を研究する学生たちに、向けて、インターネットを通じて町内外からの意見も寄せられており、議論の盛り上がりが見られる。

水窪町を題材に取り上げているのは、明治大学政経学部非常勤講師、川島高峰さんが受け持つ、二年生向けの「情報基盤論」の授業。昨年度は約百人、今年度は三十人余りが受講している。

知人を通じて水窪町のことを知った川島さんは、東京から「簡単にには行けない場所として興味を抱いた。そして、通信・インターネットが有効活用できると考え、情報の授業の題材にする」とした。

学生たちがこれまでに授業で提案した活性化策は、「空き家などに庭園を描いて、芸術の町にする」「豊かな自然の中で学べるフリースクールを設ける」「おいしい天然水を国にアピールする」「地元特産のお菓子を名物にする」など。こうしたアイデアが掲載

町側も乗り気 あす東京で報告会



山あいにも寄り添うようにして立つ水窪町の家々。過疎化が進む町の活性化策は？

された川島さんのホームページの掲示板には、町民をはじめ、さまざまな人の意見が寄せられている。ある投稿者は「学生のレポートは表面的なアイデアで、かつ水窪の独自性を欠き、見つけ出し、確固とした思想を確立しなければ、町おこし運動もお祭り騒ぎになるだけ」と手厳しい。

また、別の投稿者は「水窪の雰囲気を守るには外部からのテコ入れよりも、内部の循環を考えた方がよい。そのために、水窪のことを本気で考える人を集めよう」と提案する。

この三月には、川島さんが現地でフィールドワークを行い、一部の学生も参加した。こうした動きを知った、水窪町の天野勝郎町長も「学生との交流を施策に取り入れ、有望な提案を具休策にフィードバックし、話している」。

水窪町 杉の美林が
名高い鎮の町。行事では、国の重要無形民俗文化財「西浦田楽」や、長野県南信濃村との「国産引き合戦」がある。七年ごとに見られる幻の池や、武田信玄が通った青龍峠がある。ことでも知られ、名物はトチモチイノシシなべだ。五月末の人口は三千三百一十六人、高齢化率は約38%。

「たい」と申し出て、あす七日午後には東京・千代田区の明大で、学生らの研究成果を発表する報告会が開かれ、天野町長ら町関係者も出席する。

川島さんは授業を機に、町の将来を考えたいという人を探し、大学が地域社会のためのシンクタンクとしての役割を果たすことができた。今後、よりいっそう、活性化策が生まれ、話している。

● 事後報道『読売新聞』遠州版、2003年6月8日付

明治大で水窪活性化策
町長も参加し徹底討論

東京・千代田区の明治大学で七日、高齢化と過疎化に悩む水窪町の活性化を授業で研究している同大の学生らがその成果を発表した。学生のほか、町おこしに関心のある社会人、自治体職員ら計四十五人が参加し、熱心に討論していた写真。

天野勝郎町長も姿を見せた。この会は、学生らと一緒に研究している同大非常勤講師の川島高峰さんと、同大出身の司法書士らでつくる勉強会「戦略経営研究会」の共催。

川島さんが授業報告をした後、天野町長が後継者や収入減などに悩む同町の林業の実態を述べ、「これを契機に互いのつながりを強くし、町発展のヒントになれば」とあいさつした。研究会は約五時間にわたって続いた。

天野町長は「今後、町民自身が危機を持てば、町は活性化するはず」と期待している。

釣り人が見た水窪

池永尚嗣（読売新聞浜松支局長）寄稿

● 天竜川水系の年間入漁証の統一化

天竜川の溪流釣り場としては、天竜川本流、そこに流入する水窪川と気田川、阿多古川の支流があるが、これらを管轄する漁協は天竜川本流で2、上記支流にも、それぞれ別個の漁協が存在し、合計5漁協ある。この結果、天竜川水系すべてでイワナ、アマゴ、アユ釣りをするには、天竜川漁協は年券4000円日釣り券1500円、中部天竜漁協（年間券はなく、日釣り券のみ1800円）、気田川漁協（年間6500円、日釣り1300円）、水窪漁協（年8000円、日1500-1800円）、阿多古川漁協（年5000円、日釣り1000、1500円）が必要になる。

テレビや新聞報道で溪流釣りの解禁日シーンが時に報道され、川にずらっと釣り竿が並んでいる光景を思い浮かべる人がいるだろうが、これは解禁直前に放流された養殖魚を釣っているだけだ。溪流釣りというよりは足場の良い中流域での釣りで、こうした人は、日釣り券を1、2回買う程度だろう。

しかし、上流や源流で釣る人、あるいはアユ釣り師は、県外の釣り人が遠征で入釣するならともかく、年間券を買っている人がほとんどだ。すると、天竜川水系では、年券を扱う4漁協分で釣り人の負担は2万3500円になる。天竜川は長野県にもいい支流があるが、もちろん、これも別に入漁料がある。この結果、多くの釣り人が、自分がホームグラウンドにしている川の1ないし、2の漁協の年券を買うにとどまっている。あとは日釣り券を購入するのだが、正直、丸1日釣りをするならともかく、午前中とか、午後だけとかもあり、その場合、源流で人目がないため、日釣り券を買わないで釣りをする人も多い。従って、まっとうな釣り師なら、いつでも釣りができる年券を買う。すると、水窪川なら最低6回は行かないと、元がとれない。つまり、リピーターになる。

となれば、他地域の人を水窪に来させるには、年券をいかに買わせるかがポイントになる。

水窪川は浜松市中心部から約80*。車で1時間半から2時間の距離だ。水窪川本流に翁川、草木川、白倉川、水窪ダムとその流入河川の戸中川、水窪河内川があり、自然環境は比較的良好で、アマゴだけでなく、

天然のヤマトイワナ（本州ではエゾイワナ、ニッコウイワナ、ヤマトイワナ、ゴギのほぼ4種類のイワナがいる）も釣れる。水窪漁協の放流はアマゴの成魚2000尾、稚魚1万8000尾、発眼卵3万粒で、ヤマトイワナは放流しておらず、水窪川で釣れるそれは、すべて天然物だ。

私自身、水窪川で5月上旬にルアーでヤマトイワナを4匹釣ったが、正直、驚いた。日本の川では、野宿覚悟で奥山岳地帯に分け入って釣る場合は別にして、放流もせずにそれなりの魚資源が維持されているのは珍しい。イワナは12-15センチと小さく、12センチ以下は採捕禁止という漁協ルールは満たしていたが、すべて逃がしたのも、この希少性による。

このように県内では自然環境がまだ維持されている水窪川だが、年間入漁証を購入しているのは、3月1日の解禁から時間が経った4月中旬時点で、88人だった。6月解禁になるアユ釣り師が今後、購入する可能性はあるが（水窪川の年券はアマゴ、イワナだけでなく、アユも釣ることができる。但し、実態として、6月以降の年券購入者は少ないと思う）、浜松市周辺や磐田、袋井市など水窪町へのアクセス国道がある遠州地域の人口は100万人あることを考えれば、購入者はかなり少ないといえる。これは、①水窪川の釣り場は天竜水系の他漁協より広いものの、年券の価格は他漁協に比べて高い②人口の多い遠州南部から遠い——ことに起因すると私は見ている。アマゴ、イワナは解禁直後は比較的釣れるが、警戒心が薄い放流物が釣り切られると、アユに比べて放流数が2ケタ少ないだけに、アマゴ、イワナは数自体が少なくなり、釣るのは容易ではない。5月以降は1日に数匹、1匹も釣れないこともある。浜松市から水窪川で釣りをして帰宅すると、私の場合、まず走行距離は200*になる。つまり水窪川への釣行はコストがかかる上にリスクも高い。

しかし、天竜水系全体の年間共通入漁証の発行が可能になれば、水窪川を訪れる釣り人は、現状より確実に増えるだろう。この場合、共通券に割安感がないと釣り人は購入しないので、価格としては1万円以下をめどにすべきだ。通常、気田川や阿多古川、天竜川で釣りをする人も、共通券で水窪川でも釣りができると

なれば、「行ってみるか」と考えるはずだ。仮に水窪川の現在の年券 8000 円と同額にすると、水窪川の購入者は最低でも従来通りだろうし、天竜川、気田川、阿多古川は単独年券よりも 1500—4000 円高くなるものの、釣り場の選択肢の増加は、それ以上のメリットになるため、やる気のある釣り人は年間共通券を購入するだろう。もちろん、各漁協単独の年券発行も認める。後は各漁協への共通年券収入の分配が課題となるが、浜松市を中心とした自治体合併構想に水窪や春野、佐久間町も参加し、数年後にはこれら 3 町が浜松市に吸収合併される可能性が高く、内水面漁協としての統合や、運営の共通化を図るチャンスがくる。統合して「天竜川水系漁協」となれば、分配は問題ない。

こうした共通券はすでに岩手県内水面漁協連合会が発行しており、イワナ、ヤマメ、サクラマス、アメマスの「雑魚」を対象とする共通年券は 3 年前で 1 万 8000 円前後、アユも含む年券は 2 万数千円だった。同連合会には、岩手県の 2、3 の漁協以外は全部加入しているため、ほぼ四国に近い面積があつて流域が長く、静岡県以上の数がある溪流のどこでも釣りができる。釣り人から岩手県が「溪流王国」といわれるのは、県人口が 110 万人と少なく、一方で自然環境が良いために溪流魚の資源量が多いという事情もあるが、釣り人の便宜を図っている連合会の運営姿勢も背景にあるといえる。

● 共通券第 2 案

特にアマゴ、イワナはアユと違って、水深が浅く、透明度が高い源流に棲息するため、ヤマセミやサギ、ウなどの水鳥に狙われることから、極めて警戒心が強く、先行した釣り人が入っている場合は、同じルートを釣っても、後から入った釣り人は釣りにならない。仲間が釣られた時の水音や釣り人の足音、振動、人影にアマゴ、イワナは怯え、岩の下や深い淵に逃げ込む。まず 1 日はアウトだ。このため、溪流釣り師は、夜明けから、まだ人が入っていない川を目指す。釣り上ったり下ったりして、新しい足跡を見つけた場合、車に戻ってさらに上流か下流、あるいは別の支流を目指すのが普通だ。私自身、水窪川の周辺部で 1 日 40—50* は移動する。私が共通年券を求めるのも、このためだといえる。

こうした溪流マンの行動を考えれば、天竜川水系の共通年券の発行により、釣り人は釣り場の選択肢が増え、気田川で午前中に釣れなければ、夕方、水窪川へ行くとか、土曜日に水窪川に行き、一泊して日曜日は気田川という行動が可能になる。この場合、選択の基準になるのは、釣り場の近接性である。天竜川水系は、

船明（ふなぎら）ダムと秋葉ダムで水窪、気田川漁協のダム上流側と天竜川漁協、阿多古川漁協のダム下流側に分けられる。漁協が地域に根ざすことを考えれば、天竜川の全水系漁協の統合は難しいかもしれない。この場合、最低、水窪側と気田川の共通年券発行を実現させる。両川は近接しているからだ。

● 第 3 案

水窪川の年券（顔写真の添付と購入者氏名、住所の記入が必要）、日釣り券とも浜松市内の釣具店で売っていない（少なくとも知らない）。このため、水窪町の取り扱い店にわざわざ行かねばならず、不便この上ない。遠州地域には、大手の釣り具チェーン店があり、販売を委託すれば、浜松市周辺の釣り人の購入者が増えるのではないかと。

テーマ外提案として砂防ダムの撤去または改善を

水窪川水系の各河川を見ると、至る所で高さが 7、8 m はあろうかという砂防ダムで川が寸断されていることに驚く。しかも、魚道がまったくなく、川を「大地の血管」に例えるなら、これほど「血栓」があつては魚も産卵・遡上はできないだろう。長野県知事が田中康夫知事になり、脱ダム宣言が有名になったが、もうひとつ注目されるのは、既存の砂防ダムの撤去・河川環境復元工事が松本市の牛伏川で始まったことだ。砂防ダムの建設は源流域の工事のため、この影響の深刻さは溪流マンが最も良く知っている。砂防という目的をどう見ても達成しているとは思えないものや、下流の河床低下という 2 次被害を起こしている事例は無数にあり、これらを可能なものは撤去することが、今後、環境保全という点で大事になると思う。

東京・永田町に「砂防会館」という建物があるが、これが砂防ダムを利権化し、全国の山村雇用対策と選挙の集票マシンとして必要でなくとも砂防ダムの建設を止めないという実態がある。私は左でもないし、ガチガチの環境保護至上主義者ではないが、10 年前から始めた溪流釣りで源流域に行くようになり、国民の眼に見えないところで行われていることの現状にショックを受けた。

しかし、牛伏川の事例が示すように、今後、こうした工事が全国で行われるべきだと考える。砂防ダムの撤去は新たな工事だが、源流破壊よりは再生の方がいいし、これは無駄な公共事業とはいえないと思う。山村の雇用対策にもなるだろう。

撤去が不能ならば、せめて大地の血管として機能させるためにも、魚道を取り付けるべきだ。どの川にも

固有の魚の通り道があり、魚道はダムや堰堤の両端につければいいというものではない。川は一般に洪水時は中央部分の流速が最も早く、両端は遅くなるため、設計者は堰の強度を弱めないためにも、両端に魚道を設置する事が多いが、魚は遡上する際には、川が最も深い場所を選んでいる。これは必ずしも川の中央部とは限らないので、設計者は現地に行って、川の状況や漁師、釣り師に取材して魚の通り道を見つけ、その位置に魚道を設置しなければ、魚は遡上しない。全国には、こうした無意味な魚道が無数にある。

禁漁区の設置

白倉川の最源流と戸中川上流の西俣川、中俣川、東俣川の4地域を選び、4年に1回、輪番で禁漁河川とする。水産漁協がヤマトイワナの増殖・放流事業をしていないので、大きな沢崩れや出水があれば、ヤマトイワナは壊滅的打撃を受ける。イワナは生物分類学による種の分類だけでなく、釣り人の感覚としては、増

殖放流がない川では、川ごとに別の魚のように顔つきや体型、魚体の紋様が違うことが多い。源流域に住み、隣の川は標高1000m級の山で遮られ、下流に降って別の川に回り込むには、下流の水温の高さに耐えられないからだ。1つの源流は1つのガラパゴス島ともいえる形で長い年月、代を重ねてきた。

こうしたことを、釣り人の中でも意識の高い人は良く知っており、水産川で釣りをする釣り人は、「よその川のイワナを水産川に放さないで下さい」と源流に看板を立てていると聞いた。かつてはヤマトイワナ、ニッコウイワナ、エゾイワナなど棲息地域が明確に分かれていたが、増殖と放流により、エゾイワナの地域にニッコウイワナが棲むなど、急速にイワナの多様性が失われつつある。しかし、増殖・放流をしなければ、釣り人は入漁料を払ってまで釣りに来ない。

種の多様性と資源量の両立を図るには、禁漁区の設定が最も効果があると考えます。

溪流釣りとは 理解促進のための補項

水産川のヤマトイワナが放流という人為的補助なく、資源が存在するのは、①白倉川と戸中川にある林道が、ある地点から森林監督署のゲートで車の進入が遮断されている②6月から9月にかけてヤマビルが跳梁跋扈する——ことから、ある程度、釣り人の手からヤマトイワナが守られるためではないかと思われる。釣り人から「源流の守護神」と呼ばれるヤマビルは、足下の草の影や時には樹上から、人やシカ、カモシカに飛びついて吸着・吸血する。熊はともかく、マムシ、アシナガバチ（刺されると2回目はショック死する可能性あり）、イヨシロオビアブ（何百匹もが執拗に人につきまとい、吸血する）以上に溪流マンにとって、やっかいな存在だ。泉鏡花の著書「高野聖」の冒頭にヤマビルの描写があるが、私自身、マムシより怖い。ところが、水産、気田川、青崩峠を挟んだ北隣の長野県遠山川は、国内でも有数のヤマビル多棲地帯である。溪流釣りには

①餌釣り 溪流魚が常食とする水棲昆虫やミミズを主に使う。ごく一般的な釣り方。竿は7、8mまで。糸の長さもほぼ同じ。溪流釣りの中では最も数が出るが、小物も釣れる。

②ルアー釣り 1.5-1.8mの短いリール竿を使い、糸の先にスピナーやスプーンと呼ばれる金属片に釣り針が付いた物を結びつけ、これらを水中で引っ張ると、水の抵抗で金属片が震動する。溪流魚の中でも、魚食性を持つイワナ、アマゴ、ヤマメ、ニジマスなどのサケ・マス類は、こうした震動を餌の小魚と錯覚、食いついてくる。ミノ（小魚の意）と呼ばれる木またはプラスチック製の3-7センチのルアーもある。餌釣りが届かないポイントも攻められる。一般的に大物が釣れやすいが、魚にとって詐欺的な釣りであり、数は出ない。ちなみに私は、この釣りが専門。

③毛針釣り 和式と洋式があり、日本古来のものはテンカラ、リールを使う洋式はフライと呼ぶ。水棲昆虫は幼虫時代には水の中に済むが、種類により、5月くらいから水面に出て成虫になり、川辺を中心に飛翔する。サケ・マス類はこれら水棲昆虫を常食としており、毛針は水中、水面にいる時のそれぞれの形態に似せて作られている。魚が水面を割って毛針をくわえるというスリルがあるが、毛針は軽いため、技術的にポイントに飛ばすことが難しい。夕方、水棲昆虫が水面に出て成虫になることをハッチというが、この時には、餌やルアーに見向きもしない溪流魚でも釣れる。

以上が溪流釣りのジャンルであり、一長一短。ほとんどの釣り人は①-③のどれか得意なもので釣ることが多く、ある日は①で、翌日は②でというふうに、すべてのジャンルで釣る人は少ない。ただし、漁協によっては、日本伝統の餌釣り、毛針釣りは認めるが、ルアーは認めないところがある。ルアーには大きなかり型の3本針が付いているが、ルアーという欧米式釣りに馴染みがない漁協の古手幹部は、「魚を引っかけて釣る」と誤解しているようだ。天竜川水系では、気田川漁協が認めていない。しかし、皮肉なことに気田川が川幅、水量とも最もルアー釣りに適しているのに、これの解禁を求める釣り人は多い。群馬県の利根川漁協もルアー禁止だったが、数年前に解禁になったように、現在では、全国のほとんどの漁協が認めている。

学生の提案を受けて

平澤裕一(水窪町議会議員)

1 水窪に暮らしてみて

皆さん、水窪の人口、歴史、立地条件などは十分ご存知と思われるのでまずは自分が、3年前から実際に水窪に住んでみて、思ったことについて話してみたいと思います。

1. どの地域でも、自治会など各種団体があり、それぞれ役員がいますが水窪では少子高齢化のため、人手不足により、ほとんどの役が持ち回り制になっています。一人でいくつも掛け持ちすることもあります。当然、帰郷したてで右も左もわからないうちから、自分自身商工会理事商工会青年部副部長、若連副連長、など掛け持ち、家族も副区長、花の会会計、婦人会支部長、婦人会本部副会長など、知らない人が聞いたら「優秀なご一家ですね」と言われそうなほどです。今、水窪でなかなかない役は、町長と老人クラブの会長くらいです。
2. 娯楽が少なく、他人の観察と詮索、うわさが最大の娯楽になっている爲町内でハメを外して遊べない。大きな買い物もばれないように隠す。昨日は12時過ぎまで電気が付いてたねとか、
3. 水窪でも夫の親との同居は敬遠されているが、アパート不足のためいわゆる嫁に精神的負担がかかる。外でも、内でもいい子でいなければならないので羽をのばせない。
4. 若者の別居に、年寄りが妙に理解があり、都会に出ている子供に働くところがないから帰ってくるなど言っている。そのわりに若い衆はみんな出でて帰ってこないと嘆いている。
5. あいさつが人間関係の基本であることは分かるが、皆知人の車の車種、ナンバーまで覚えており、すれ違うたびクラクションを鳴らしてくれる。見過ぐすと、後でシカトしたとなじられる。最近では面倒なのですれ違う車、人すべてに頭を下げるようにしている。
6. 誰がどの家の出身で、兄弟姉妹がどこにいるのかまで把握して、初めて一人前の水窪人といえるらしい。
7. 塩の道の宿場町として栄えた時代があるとは思えない程、警戒心を持つ距離を置いていたのに水窪出身だとわかったとたん親しくなる。
8. 昔ながらの、男女、年齢などの差別があからさま

に行われている。男女一緒に、女だけで飲みに行く機会はないし女性だけで行けばなおさら批判的

9. 若者に覇気がない。全てをあきらめ自分の利益だけを守ることに固執し唯一の楽しみといえ、週末浜松にでて遊ぶこと。
10. 近隣市町村の人たちは水窪の風習を知っているため、嫁のきてがない町外で結婚した人も、水窪にもどりがたらない。
11. 最後にいいことをとても義理堅く、受けた恩はわすれない。詮索好きな反面、世話好きでもあるので、困っている人を見過ごせないおつりが多い時、必ず返してくれる。後で気付いても届けてくれる。一度心を許せば、家族同様のおつきあいができる。

以上、3年間の生活で思ったことを挙げてみました。悪口ばかり目立ってますが、ただ単に嫌いで言っているわけではなく自分の故郷を愛しているがゆえのことと理解してください。どこの田舎でも多かれ少なかれ経験することでしょうし、冗談みたいな話もありますが、全部本当です。私は中学を卒業と同時に水窪を離れ、いくつもの町で暮らしてきましたその町と比較して言っている部分もあるし、学生時代休学してアメリカに留学したり（今のうちに気軽に駅前留学できる時代でなかった）結婚後、NZで3年ほど暮らしたりと相当好き勝手やってきたため、日本での常識というものに疑問を持ち始めたせいもあるかも。

2 もっと暮らしやすい町に

生まれ育った町でありながら、思いがけず暮らしにくいと感じることは、とても悲しいことでした。なんとかしなければ。そこで、とる道は2つ。こんな暮らしにくい町、さっさと出て行くか。もしくはこの町を住み良い町に変えてゆくか。これは言うほど簡単でないことは分かりきっているが、どこに住んでも、故郷は人に誇りたいもの。住所は変えられても、水窪が古里であるという事実は一生涯ついてまわる。今のまま町を出れば、故郷の悪口ばかり言ってしまうそうです。やってみてどうしても駄目だったら、町を出て行けばいいんだから、とりあえず、できる限りのことをやってみよう。これが、私の出した結論でした。

今、日本のみならず世界はネイチャーブームであり、

都会の人たちが求めてやまないものが目の前に無造作に広がっているのである。これらを求めてくる都会の人たちとふれあうことで、町に対する誇りが生まれてくると考えられる。せっかく豊かな緑ときれいな水、野生動物など自然に恵まれているのにそれを十分に利用してないのでは？ と考える。

いい町というのは、決してお金持ちの町ではないし、立派な建物や整備された道路がある町ではない。自分の町をどれだけの住民が好きと言えるかである。今のところ町民のほぼ全員が、この秘境ムードあふれる町の自然に誇りをもっているようなので、それを外へ発信してゆけば経済と心と両方の豊かさを手に入れることができると確信している。魅力ある町は、魅力ある人達が住む町です。魅力ある人をつくるために、今、町に必要なのは、

- 専門知識をもつ人材の育成
専門知識なくして、町の財産である自然を有効利用できない
- お金と利便性にこだわる意識の改革
ないものを求めるのではなく、あるものを最大限利用する。
- 他地域との交流により向上心を育て、島国根性を直す。

今は、そう思うところまで、到達したが水窪に帰ってきたばかりの頃は暗中模索の状態、想いを形にする方法がわからなかった。私が、幸運だったのは、想いを同じくする2人の友と出会えた事である。まず3人で町おこしの一環として、葬祭業を立ち上げました。なぜ葬祭業か、など詳しいことは、後ほど時間をとるそうなのでここでは割愛させていただくが、その友人がたまたま明治大学の出身で皆さんが、水窪の町おこしについて研究していることを知り、今、私がここに

いるわけです。
さて、葬祭業はそこそこの軌道に乗り、ひとかどの成果は上がったものの、一企業の力だけで町おこしをするのは、人口3600人余の町とはいえなかなか難しい。そこで、町制をも巻き込むため、議員に立候補したその結果、私が当選したのは、町民にも改革を求める気持ちがある証であると受け取った。

3 学生の皆さんのレポートより

最後に、皆さんの研究が、どれだけ価値のあるものかということをお伝えしたいと思う。水窪町民でもない人達が水窪の活性化について研究してくれているという事実は、町内の志ある者に大きな感動を与えている。皆さんの水窪に関する研究は、選挙戦のあいだも私に力をくれた。水窪の選挙は親戚選挙といわれ、血縁の少ないものは当選できないとされてきた。

水窪に帰ってきてたかだか3年、知名度がなく、ほとんど親戚がいない私は苦しい戦いをしいられていました。

そんな時にも、今この瞬間、遠く東京の空の下で、学生の皆さんが水窪の活性化に取り組んでくれていると思うと、地元の人間がもっと頑張らないでどうする、と奮い立たせてくれました。選挙権はないとはいえ皆さんが大きな勇気と力を与えてくれ、心から町の活性化を訴える私に、思ったより多くの票が集まる結果となりました。そして、私が議員になれたということは、町おこしを、町政のレベルで発案して行けるということに他なりません。皆さんのレポートが、実際の政策として、町の将来を左右するかも。今月行われる定例議会では早速発案させていただくつもりです。

皆さんのレポートを拝見させていただいて、外から客観的にみて研究されたレポートは、その土地に住む人達のエゴやしがらみが入り込んでない分、より純粋で、画期的であると思いました。そして何より、町にいない世代からの発案であることは、町の盲点をカバーする意味もあり、大変価値あるものだと考えます。レポートの中には、自分自身がこうやって見たらどうだろうと考えていたこともいくつかありました。しかし、自分の頭の中の内構想よりずっと洗練され、要領良くまとめてあり感心しました。

町村合併を間近に控えた折でもあり、町民の「今後の水窪はどうなる」という意識が高まっている今、皆さんのパワーに便乗して一気に改革路線に踏み込むことも不可能ではない。皆さんの研究を机上の空論で終わらせない為にも、水窪との橋渡しとなり、町の活性化のために頑張っていくつもりです。私自身、町内の若い人たちと力を合わせ、町の将来のために研究を重ねていくつもりですので、今後とも Keep in touch でお付き合いください。

そして、私たち、水窪町民と、このように交流することで、皆さんの研究により深みが増すことができればと、心より願います。

水窪葬祭営業実績・今年度目標

	第一期 H13.6~14.3	第二期 H14.4~15.3	第三期 H15.4~16.3
葬式件数	11	37	45
初盆件数	0	21	35
売上(単位:千円)	4,240	29,850	40,000

葬儀件数は、自殺を含む。第三期は、予想目標値

資料⑤・グループ・ディスカッション

グループディスカッションA班レポート

- 竹内 岡さんの意見を批判するのではなく、岡さんの意見の具体化をベースとしてディスカッションを進めることにします。まず、岡さんのアイデアを具体化するにはどうしたらよいか、またその問題点について議論していきましょう。まずは、サマーキャンプの実施について。ネックになりそうな問題点とか。
- A 岡君、水窪に来てくれたよね。
- 竹内 じゃ、実際に見て、サマーキャンプのネックになりそうな点を紹介してください。
- 岡 実際に（水窪村を）見る前に書いたプランなので、見たあとには「自分のプランは総崩れかなあ。」と感じました（笑）。まず、サマーキャンプなんですが、水窪って、予想していたより普通の町って感じなんですよね。自分の田舎は石川県と三重県なんですが、そういうところに比べても、同じように普通の町なんです。サマーキャンプをするには、杉の人工林というのもひっかかって。
- 竹内 花粉症なの？
- 岡 そういうわけではなくて。多様な生態系の中で生活しているのかと思って。そういう中でキャンプできると思ったので。ただ、そういう環境の中でも生活している人たちがいるんだから、そういうところでキャンプするのもありかと。
- 竹内 杉の人工林はなんでだめなの？
- 岡 自然の中で暮らしていると思っていたんですよ。広葉樹があって、紅葉があってみたい。杉は商業用につくられているし、杉がだめというより、いろんな生態系があると想定していたのに対して、杉一種類というものが、ちょっと厳しいのでは、と。
- 竹内 杉がだめなんじゃなくて、杉だけっていうのがだめなんだ。
- 高橋 山の方に行っても、そうなんですか？
- 竹内 山の方にいけばね。
- 岡 ただ、今日水窪のパンフレットを見て「あらゆる自然のサンクチュアリ」と書いてあるので、そうでもないかなあ。
- 竹内 そうだね。岡君が水窪で見たところは里だけだから、山の方に行ったら、そんなに幻滅することばかりじゃないかも。今年はもっと、山の方にいけば。
- 和田 じゃ、村全体からみれば、サマーキャンプに適当なところもあるんですか？
- 竹内 ありますね。
- 岡 自分のイメージでは、自然の中に民家が点在していると思ったんですよ。実際には村の中の住みやすいところに民家が密集していて。町は町だし、町とは離れたところでキャンプするのかと。
- 竹内 田舎のイメージにある茅葺の民家があつてとは違うね。キャンプ地っぽいところは今のところはないけど、環境的には可能であると思います。
- 和田 ちょっと、このテーマはここで中断して次のテーマを議論しましょう。
- 竹内 じゃ、交換留学について。
- 岡 交換留学って、間違いじゃないけど、今都会の子が危ないとか。一時期、切りくずをきのこと間違えるような子供がいてと新聞で取り上げられていて。やっぱり、自然の中で子供が学ぶことは必要なあと。ただ、普通に親子で田舎に観光旅行で宿泊しても、自然を学べないので暮らすことが必要だと思います。また、反対に田舎の子も都会へ出て行く機会をつくる。結局、俺らは、言葉が悪いけど、水窪に愛着は薄いじゃないですか。だったら、水窪の人が自分たちで頑張ることによって、来た人も愛着が出るのでは？と。（※若干、音不明瞭につき、推測にて書き起こし。）こういう方法で、都会の子と田舎の子の交流ができるのでは。
- 竹内 交換留学？ホームステイってこと？
- 岡 自分が考えたのはサマーキャンプ方式ですね。
- 竹内 自分たちで調理するってことも含めるんですね。私のイメージでは、林間学校っていうか、合宿って感じですかね。私の学生時代にあった飯ごう炊飯を含めた合宿ですかね。
- 岡 もっと、田舎だと思っていたので。
- 田村 山村留学ってことですか？
- 岡 そうです。サマーキャンプって言っていますが、山村留学です。
- 田村 批判的なことを言うてはいけなと言われてたんですが。自分は過疎地の調査をしています。その中で、山村留学も見ました。私が見たケースは、人口約1200人の村で、隣接する村と共有する形でセンターが一つあって、半年はセンター、半年は村内でのホームステイで受け入れるというものでした。実際にホームステイを受け入れている家庭を見せてもらったんですが、過疎地の活性化という観点から見た場合、疑問なんですよ。山村留学を始めたきっかけが、過疎化による児童数の

減少で廃校になるのを防ぐ目的だったんですよ。実際に、経済的な活性化になってるのか疑問だったし、過疎化の村は高齢化も進んでいるので、受け入れ家庭を探すのも大変という現状がありましたし。もし、山村留学を現実的プランとして立ち上げるには、受け入れ機関をどうするのか、また人的資源の限られた過疎の村で、受け入れにどう対応するのかが、問題だと思います。財源もどうするのか疑問です。

前川 確かに、何もないと言っては失礼に当たるとは思いますが、水窪でサマーキャンプをすることは、教育的には良いことだと思いますが、経済発展に役立つかどうかは2次的なことだと思います。ただ、経済的發展を考えるのであれば、需要も必要だし、現時点で観光地でもない水窪村に需要を見出すには、よっぽどアツと驚くようなものがないと難しいと思う。サマーキャンプで経済的に云々より、サマーキャンプはサマーキャンプで割り切って考えないと。

竹内 サマーキャンプについては二つの面があると思います。教育的機能としてのサマーキャンプの有用性は誰も否定しないと思います。もう一方において、財政的に最低限のペイを考えないと、施策として継続性が望めないという点です。今までは、地方行政に関して、経済的なことを考えなくても良い時代でしたが、現在では財政は切迫している時代なので、補助金がないと成り立っていない部分があります。教育もお金になるすべを考える必要もあると思います。ただ、村内にのみ人材を求めなくても、結果的に人件費が出るようになれば、村から出て行った人材も村内に仕事があることで戻ってくる可能性もある。また、それが仕事としてある程度の期間成立する必要があると思います。

高橋 これは、経済的活性化ではなく教育という面で考えていくことが有用だと思います。水窪でサマーキャンプした子供が自然教育を受ける事が重要なのでは？

岡 自分が考えたときにも、経済効果とはちがうかなと。ただ、これが起爆剤になればいいかなと。

和田 『地方から全国へ』というタイトルも、教育をにらんで、人と人とのつながりを復活させることを狙っているのかと。これらを前提にですね、私は子供のサマーキャンプの前に、当面は大人向けのサマーキャンプが出来ないかと思っています。例えば、企業は保養施設を開放している時代ですよ。

竹内 そうですね、金融機関、特に銀行は売っていますね。

和田 その辺をターゲットに施設を作っちゃうというのはどうでしょう。

竹内 共用ということですか。

和田 インターネットなどの通信と言う部分から考えると、ある面悩ましい面もあり、そういう自然の中では、利便性の喧騒から離れていたいんですよ。よく、大学

の会議などでも言えることですが、近場ですと、細々とした雑用から離れられないために、あまり進まなかったりするんですよね。かえって、地方のそういうところでやった方が話が進む場合がある。そういう場面を考えると、情報施設を整える必要があるのかなと。まあ、こうなると経済的収益性は考えていないんですけどね。また、子供たちの自然教育からも少し離れてしまいましたが、皆さんのお話を聞いていて、こういうアイデアもあるかなと。

竹内 企業の保養施設っていうのも、面白いかもしれませんね。今、保養施設と契約形態になっていますので。自前のものがなくなっていますので。社宅しかりです。

和田 大人向けの楽しみって多いじゃない。最初から子供向けのサマーキャンプをターゲットにしてしまうと、関東近辺では近場の高尾に行くのとどこが違うの、と。わざわざ行くメリットがあるのかと。ないなら近場でいいじゃんということになります。大学の場合、学生を引率する場合には、それは大きいかなと。だから、先ほどの多様な生態系があるキャンプ場だったという話でしたが、そういうモチベーション付けするものが必要ですね。そこに行かないと体験できないものがないと。私はそこに行った事がないので、あるのかないのかわかりませんが。多様な生態系といった売りになるものがないのならば、それに変わるものは必要だと。

竹内 水窪にしかないものっていうのが、なにかあればね。不便さを超えるものがあれば。長くいるのは辛いという話もありましたが、たまに行くモチベーションになるものがあれば。それが保養所とかですね。国内なら長くても1週間も滞在しないでしょ。

和田 保養所だと年間で開催される期間が限定されてしまうので、会議などでも利用できる施設の方が良いのではないのでしょうか。

竹内 学生さんだと、サークルの合宿などでの利用があるのでは。

高橋 自転車であちこちを旅行するのが趣味なんです、水窪の話を知っていると、行ってみたいところはたくさんあります。

竹内 行ってみたいと思うんですね。

高橋 自転車やバイクをする人にとっては魅力があると思いますが、知名度がないために知らないですよ。宣伝が必要ですね。

竹内 そうですね、あの辺だったら山中湖などが知られていますよね。遠く不便なんだから、今までないものがないかなと。

高橋 それに、そのうちバスとかも走らなくなるんですよ。そうするとさらに厳しいですよ。

竹内 今はまだ走っていますよ。JRのバスは廃止になったん

ですが、民間のバス会社で走らせています。町でチャーターすると割りにあわないからね。また、水窪って変なところで、静岡にありながら豊橋からのアクセスの方が便利なんです。飯田線が愛知県の豊橋からあって、南側は浜松があるんですが、西鹿島までは電車があるんですが、そこからはバスを利用します。岡君も来てくれた時には愛知県豊橋から来てくれたと思うんですが、地域的には微妙なところですね。

和田 研究施設とか。

竹内 ないですね。宿泊施設も後継者の問題でないですね。

A 今度国体で、民泊があるとか。

竹内 せっかく、国体で民泊を利用されるんだから、それを活用する手も。

前川 オートキャンプ場とか。パンフレットを見て、ここには行きたいかなと。

竹内 ただ、水窪に行くまでに、オートキャンプ場はあちこちにありますから。例えば、その前の村にもあります。手前にあるところを超える独自性がないとつらいかなあと。

竹内 民間企業に勤める者から見ると、どうしてそういう採算性の取れないものを作るのか不思議です。ハコ物ですよ。

前川 町が作ったんですか。

竹内 公営でしょう。

前川 維持費だけでもかかりますよね。ただ、隣町が作ればうちもみたいな。(※聞き取り不能)

高橋 地方色のある行事とかは。カメラオタクが興味を引きそうなものは？

竹内 無形文化財か有形文化財で、わざわざ水窪に足を運ぶようなものって、ないんですかね。

和田 なにか日本一位になるものはないんですかね。例えば、綱引きみたいなマイナーなスポーツでいいんですが。

竹内 前テレビで見ましたが、岡山的女子サッカーチームがあるところがありましたね。結構話題になってましたよ。そういうのがないかないんですかね。

川島 田村さん、数多の過疎地を見ているからなにかアイデアは？

田村 現状を見すぎていて、なんとも。

竹内 水窪って、本当に奥地で山の際にあるんですが、これを何か生かせないかなあと思うんですが。目新しいものはないけど、北が囲まれているから、南も囲っちゃえば出て行けない。戦略上安全じゃないかなあと。サミットとかで。

和田 その人たちは民泊するの？

竹内 それは問題あるかも。

和田 ハコ一つで、企業の保養所やサマーキャンプにも使えるようなもので、どこにでもあるけど、ここにしかな

いというものがなくて水窪まで人は来ないのでは。

川島 天竜川が人の流れのダムを作ってしまった現実があります。

和田 人の流れを遮断するのには向いているということでしたので、自然保護の観点からお叱りを受けるかもしれませんが、サバイバルゲーム場をつくるのはどうでしょうか。そういう人たちなら、川を越えても来るんじゃないでしょうか？

竹内 治安上の問題がありませんか。

和田 住民の反対もあるかと。

竹内 話をさらにごちゃごちゃにしてしまうような話になりますが、水窪は排他的なんですよ。例えば、誰かに会ったら挨拶をしなければならぬ、よそ者がいると「あいつは誰だ。」という話になる。外から人が来てくれることが、村の人の合意にあるのでしょうか？

川島 人が外から来てくれることには喜んでいましたよ。例えば、地元のお年寄りに、自分が学生を今度連れてきますよと話すと、あなたが来てくれただけですごうれいとい、涙を流して喜んでいましたよ。だから、外から人が来るという発想自体ないのではないのでしょうか。

竹内 では、外から人が来てくれるなというわけでもないんです。来ると問題は発生するかもしれないけど、来てくれないことには経済的活性化かもなにもないですよ。長く住むようになるとまた話は別になると思います。

田村 私は過疎地の地域活性化って、二つの側面があると思います。ひとつは財政をどう潤すかという経済的な活性化と、もうひとつは人口を増やすことをめざす活性化ですね。今、岡さんが発表されたことは、財政面を潤す活性化にはならないけど、人口を増やすという意味での活性化策として位置付けて、話を集約していくのはどうでしょうか？

竹内 お金じゃなくて、人口と。その方が話しまとめやすいでしょうね。

田村 利益を出すことは無理でも、マイナスは出さないようにというのが条件だと思います。水窪には宿泊施設がないとのことですが、民泊って可能なんですか。

竹内 今度の国体で民泊するので、可能です。

田村 長期的な山村留学は無理だと思うので、最近よくやられている総合学習の枠にうまく組み込めないかと。ただ、そのためには相手が必要です。

竹内 首都圏ではなく、県内の近場の小学校などでも良いのではと。逆に、近くてちょっと都会。例えば、静岡市からちょこっと来てもらう。調度良いコミュニケーションになるのでは。また、それをデータとして今後のために分析して今後の展開を考えるのに適当ではないかと。実現化可能かと思います。国体で民泊の実績も

できることですし。

川島 村内に農林省の建物があるので、その転用も。木工作業場も隣接しているので、総合学習に転用することも可能では。

高橋 小学校とかの姉妹校などは作るのはどうでしょうか？インターネットなどを利用して、都会の子と交流するとか。

田村 まずは、特定の相手ですよね。

(中略)

竹内 村の人もあきらめている部分も大きいですね。さびれていく一方という感じの。

川島 たとえ、村内にハコ物があっても、それをどういうソフトがあれば動かせるのか理解されていないと思います。

竹内 確かに、何も無いというイメージがあったんですが、よく見るとハコ物は一通りそろっている。それをどう活用するかですね。活用されていないハコ物がたくさんありますが、それはどうするのがよいですかね。

前川 維持に赤字を出すのであれば、壊す方がよいと思います。だから、活用するのであればペイすることを考えないと。地域の人たちがNPO形式や、学生を使うなどして利用していくことを考えないと。ウォーキング大会やマラソン大会などで利用するとか。取り上げ方だと思っています。

竹内 やっぱり、受身だと思います。都会の人が来てくれれば涙を流して喜ぶけど、自分たちからなにか仕掛けることはしないと。

川島 地方にはまだ一発逆転を狙うような施策を考える向きがあるのでしょうか。どうですか、田村さん。

田村 地域性もあると思いますが、地域によっては「一発逆転」的発想を役場の行政マンが真面目に言っていたりします。

竹内 公務員が？

田村 そうです。

高橋 すごい。

田村 一発当てればいいんだと。その発想法でスキー場を第三セクター方式でやっていたところでは、企業が撤退しちゃって、現在大変な状況におかれている村もあります。その一方で、長野県の場合ですが、従来型の公共事業については否定的な現在の田中知事ですが、企

画書によっては、紐付きではない予算をもらえるそうです。非常に小額ですが。話した役場の人は「これはこれで、良いのかなとも思う。」と感じているそうです。

竹内 一発逆転って、お金かかるけど、コスト意識はないのかな？

田村 なさそうですね。

竹内 僕は地方出身なんですが、地方ってコツコツっていうイメージを持っていたんですが、そうでもないんですね。

(中略)

竹内 老人ホームとかはどうでしょうか？老人ホームがあれば、安心して住めますよね。内部循環というか。

和田 僕のイメージでは、都会の人が入る老人ホームですね。水窪の人は、自分の家が町の中にあるのに、わざわざ老人ホームに入るか疑問ですが、都会の人なら入るかなあと。

竹内 水窪で人生まっとうしませんか？みたいな。今は町の外に流れていくお金を町の中で、内部循環させることも考える事が必要だと思います。人口が減ってくると、どうしてもお金は外に流れていきますから。新たに、外から人がくるか、資金が入ることを考えないと。仕事がないから、若い人は無理だけど、リタイアした人が定住し、仕事についてない子供たちには、短期間サマースクールで体験してもらうというのが良いのではと思います。都会で働いていた人が、子供の頃サマースクールで体験した水窪で、定年後を過ごすっていう流れもありうるかなと。長い意味での教育がそこで生かされるという図式ですね。

和田 コミュニティにおける受け入れが問題になっていきますよね。

竹内 そうですね。短期間では民泊では受け入れられても、長期になっていくとね。

高橋 水窪には資源がたくさんあるのに、条件が悪いです。知名度が上がれば発展の可能性があるのでは。情報をどう広げるかですね。

竹内 まとめはどうしましょう。教育から少し離れてしまいましたが、一生の生涯教育(テープここで切れる)

グループディスカッションB班レポート

テーマ：真・水窪林業復興計画

メンバー：

白鳥さん(大学生)

林田さん(松下政経塾生) 元日銀マン。岡山支店にて

経済分析を担当。

宮島さん(司法書士有資格者)

岡本さん(飲食店経営)

北澤さん（上村役場職員） 県から出向。

阿部さん（税理士）

榎本さん（東京都庁職員）

新田さん（大学生）

中野さん（独立行政法人職員）

古村さん（監査法人勤務コンサルタント）

河野さん（営業職）

茂木（行政書士・司法書士）

宮 そもそもこのプランは経済振興を目指すのでしょうか？ それとも、住み良いまちを目指すのでしょうか？ また、お金の流出の阻止を行うのでしょうか？ 産業を新たに興すのでしょうか？ これにより、お金を呼び込むのでしょうか？

新 プランの要点としては、林業を介して観光事業を行えないかと考えています。

岡 そもそも、水窪の住民は、まちはこうであるべきと思っているのでしょうか？

新 やる気はないみたいです。しかたないと、あきらめている。

新 森林が荒れると、見た目が良くないですね。生態系が崩れるわけですし。これでは、観光客が呼べないわけです。ですから、より理想的な、里山の状態を作る。そして、観光客を呼べたらと。ただし、林業は、結果が出るまで100年はかかってしまう。その間、どうやって食べていくかが問題となるわけです。そこで、その間、食べていくために林業を介した観光事業があるのではないかと。

宮 人工林って、手入れがたいへんという話を聞いたことがあります。手入れをしないと、雨がうわ〜と流れてくる。だから、人工林を手入れしましょうという話が出ていたというような。

北 上村の場合ですが。戦後すぐに植林事業を始めました。しかし、森林を育てたが、けっきょく経済としては成り立たなかったんです。人工林って手間もかかりますし。現在では、災害の可能性も生じています。ただ、せっかくある森林を使えていないというのでは、もったいないです。そこで、なんとか再生できないかと。しかし、昔ながらの林業では現在どうかと。間伐した木を使えないかという動きが出ています。森林って、100年かかるんですね。また、100本植えても、100年後には、10本か15本しか残らない。これでは、市場に出せないですね。なので、いまチップを材料にして燃料としたりとか。

中 林業へのボランティアの活用ですが。大都市の不定住者を連れてくるのはどうでしょうか？

榎 ホームレスはそもそも働きたくないのでは？

中 ですから、働かなくてもやむをえず働けない人を連れてくればと。ホームレスに農業をさせているところもあるそうですし。

新 ただ、林業って、たいへんな作業らしいですよ。

茂 森林が荒れるという問題は、水窪だけではなくもっと大きな問題ではないでしょうか？観光資源となるかもしれないですが、森林そのものを議論してもそれが水窪の住民のためになるかどうか？また、水窪の住民にとって、森林はなんのために存在しているのかわからなくなっているのではないのでしょうか？以前は、伐木がキャッシュになったわけで。山1個で、長者にもなれたわけです。しかし、現在、森林に手を入れると逆に赤字になる。伐木に商品としての価値が無くなっているわけです。とすると、森林に別の用途は考えられないなあと。たとえば、洪水対策。つまりは、別の用途を付加価値とするわけです。ただ、それが水窪の住民のためになるのかどうか？あるいは、川の下流域の住民の付加価値というべきなのか？だと、川の下流域の住民へのPRこそが必要になっていくのでしょうか？で、地球温暖化とかまでディスカッションの内容を持っていつちゃうと、話が大きくなりすぎるかなあ？と。もっと視点を身近にできないかと。

宮 ところで、間伐をすると森林は良くなるの？土砂崩れて。間伐をすると防げるの？木が減るわけでしょ？

新 いまは、木が過密にありすぎるんですね。これが、危険なんです。

宮 森林によるCO2の分解量も減っちゃうんでは？

北 いえいえ間伐によって、間隔があいて光が入ることによって、木は成長するんですね。そのための間伐なんですね。

茂 誰が最終的に満足するかを考えるべきかと。森林を守る事が目的でなく、森林を守ることによって人間に利益があることが目的なわけですね。たとえば、考えられる利益としては、お金か、安全か。また、事業の意義も明確にすべきですね。PRもこの明確化があってはじめてなわけですし。ボランティアへの呼びかけもそう。下流域の住民に対してもそう。と、事業の仕組みも、無償か、有償かによってかなり異なるわけで。個人的には、100年かかるようならば、その間の生活も考えていかないと、続かないですね。たとえば、間伐材の価値をどう上げていくか。商品として成り立たせていくかを考えていかないと。

岡 たしかに、目先のことと、先のことを同時に考えていかないと。

林 わたしは、すべての前提条件をブレイクスルーして、日本の林業はありうるのか考えています。なぜもうからなくなったのか？現在の林業の従事者には、この視点が抜けていると思います。もうからなくなったから、やめるのではなく、もうかるように、がんばるってのが必要かと。いままでは、地方交付金とかがどんどん入ってきたわけで。ある意味、働かなくても良かった。そして、ダメならば他の産業へ移っていけばよかったわけなんです。で、いろいろ調査をしまして、住宅メーカーの木材調達ですが、輸入ばかりです。とくに北欧からなんです。そこで、ノルウェーなんです。林業大国なんです。ノルウェーのエリートが目指すところは、日本ならば東京大学ですが、ノルウェー大学の林学部なんです。ノルウェーの林業はすべてITで制御されているそうです。いかに効率的に伐採するか。いかにいい木を取るかのために。しかも、すごい安い価格で、日本に輸出しています。2～3年前、ヨーロッパで大水害がありましたね。ヨーロッパでは建て直しのため、また同時期にアメリカでは住宅の新築ラッシュとなって、世界的に材木が足りなくなったわけですが、このとき、岡山から材木の輸出がけっこうありました。岡山って、山のほうは、木しかないようなところ。なぜかといいますと、数年前、住宅品質確保法ってのが施行されて。木造建築でも100年はもつ住宅をという流れもあるわけ。そこで、岡山の林業事業者は、100年もつ住宅のために堅い木を作ったわけです。これを輸出したんですね。で、いまではこれが輸入物よりよい材木という評価になっています。経済力ってあるわけですが、国でも、地域でも、けっこうは「人」ですよ。そこで、水窪に林業専門の大学を作るといのはいかがでしょうか。学生については、水窪以外の地域から募ります。これで、仕送りというキャッシュも呼び込めるわけです。この大学で、いままでの日本にはない、新しいモデルの林業を創造できないかと。そして、水窪の森林はこの学生たちに管理を行ってもらいます。学生。そんなに来ないでしょうけど。少人数で良いです。上村でもどうですか？と、水窪で何か林業の体験ができるという契機になればと提案してみました。ただし、この先のことは、水窪の住民が自分たちで考えていく水窪のようなあまり世間に知られていない地域に、人が来て、お金が落ちていく。活性化って、新たなお金の流れのシステムでもあるわけですから。森林大学がひとつのツールになればと。

林 ところで、そもそも、水窪って林業やっているんですか？

新 1社か2社ではないかと？

茂 林業だけでなく、農業もそうですね。小規模零細での事業の問題点というか。大規模経営による効率化の検討とかしないんでしょうか？で、日本の耕地面積って、十分欧米の農作物輸出国に匹敵していると思うんです。よく雨降りますし、気候も温暖です。また、品質改良も進んでいるわけです。むしろ、日本は農作物の輸出国になれるんじゃないかと。そこで、林業も、この考えとつながるんじゃないかと。それこそ、IT云々の技術もしたまあるわけですよ。ただし、林業ですと、結果が出るまでに時間はかかりますね。

茂 東京都的には、奥多摩の森林はどういう扱いになっているんですか？

榎 林業はまったく疎くて。すいません。ただ、東京都の施策的には、産学連携の方向です。そして、専門性を高めていく。平たくやらないってことです。地域によって特化を図っていく。多摩であれば観光とか。八王子であれば大学との連携によるIT誘致とか。水窪も、もっと戦略的に特化はできるんじゃないでしょうか。水窪ってあるみたいですよ。かたくりってのもよいですよ。デートに誘うときに、「かたくりを見にいかない？」って。「かたくりってなんなの？」って感じて興味をひけますよね。と、大学生が考えたキャッチコピーの「水窪で、生きています」っていいですよ。ところで、「みずくぼ」？「みなくぼ」？読めないですね。

阿 この際、読みやすく「みずくぼ」にしちゃうってのは？

茂 いえいえ。地名ですが漢字での表記が先でなく、たぶん縄文の頃とかの名残で、「みさくぼ」というひらがな読みが先なんです。なにしろ古くから人が住んでいたところですよ。漢字は後で、当てただけなんです。なんとなく、水がたくさん流れて、窪もあるって感じで、論理的っぽいですね。なんで、やはりひらがなで。「みさくぼ」で。

宮 で、話し戻って、林業復興というタイトルですが。観光地化がメインなのでしょうか？林業そのものがメインなのでしょうか？

新 農業も一緒ですが。農業プラスその周辺のビジネスで、成り立たせられないかという試みがあると思います。そこで、林業でも、林業プラスその周辺、たとえば里山とかのビジネスが成り立たないかと。目的は、生活ができるようにってことです。

林 いまは生活できているのでしょうか？

茂 できています。現金収入はほとんどないですが、使うところがないですよ。けっこう貯蓄はあるというお話

しです。とりあえず、現金は、商店街があるので、そこで循環しているのでしょうか。あとは、浜松まで、土日にレジャーを兼ねてお金を使うと。若者だけですが。年寄りも水窪に残っていると。と、水窪の住民はたいがい、小さくても山を持っています。で、山の傾斜地に畑を耕して、そこで取れたものを食べていますね。なんで、お金を使わないんじゃないのでしょうか。食べる分には、事足りますね。逆に、地方交付金・補助金もいままであったわけなので、新たに産業を起こさなくても、あるいは現金収入なくても、そしてなんか考えなくても生きていけたような感じです。

阿 山って、固定資産税はかかるの？

茂 0に近いようです。

阿 なぜ、水窪町って、年間予算の倍以上の借金があるのでしょうか？

茂 前町長が、バブル崩壊後にじゃんじゃん行った、補助金での公共事業のためです。たとえば、カモシカの観察施設とか。施設の近くのカモシカを観察でなく、双眼鏡とか使って施設の向こう側にある山のカモシカを観測という、とほほなもの。建設費は3億円とか。ガラス張りのそれはそれは立派な施設です。で、現在は、車がほとんど通らないところでもあります。4月～10月以外は、管理人もいない無人の施設となっています。で、私が考えたのは、ヘリコプターを活用して、VIP用のミーティングルームにできないかなあと。

林 建設業者は、多いのでしょうか？

茂 水窪町にかかわる建設業者は10社ぐらいでしょうか。ただし、町内の業者は少ないようです。ですから、公共事業で工事をしても町の外にお金が出ていってしまふ。で、ハコが残るだけです。そして、それを使う発想がないようですね。

岡 けっきょく、どこからお金が回って、誰のためのサービスとなるのかってのを考えるのが大切ですね。

林 観光事業は、直感的に難しいような気がします。なにより、観光事業のためには、住民全員のコンセンサスが必要なわけですし。サービスの意識が必要なわけですし。

茂 意識といえば、意識がある水窪の住民というのは、3600人中、30人ぐらい？ではないでしょうか？もっと言えば、この会場に来ている3人ぐらいでは？天野が東京から戻りまして、仲間を募って水窪祭の試みを起こしました。ここでの成功はまだ、できるじゃないかというように輪を拡げていっている。また、しょっちゅう東京から人が来て、どうも、東京の人から注目されているらしいと。徐々に、意識は変わり始め

ているとみています。すなわち、今回のような、まちおこしプランの実行を積み重ねていく。大成功ってのはいきなりは無理です。つまり、ホームラン1発でなく、バントヒットを積み重ねていく。そして、森林のことについても、とうぜん水窪の住民のほう詳しいわけで。実際、すごく勉強されている方もいらっしゃいます。この方たちが、活動しやすい環境を作ればと。

中 観光事業であれば、旅行会社との提携が必要ですね。

林 しかし、自然がただありますよってのは観光事業のPRとしてどうかなあ？

人を呼び込むとすれば、サマーキャンプ的なものなんですか？

新 あとは、ハイキングとか？

茂 急激な観光地化はどうかと。水窪の住民の心のキャパシティとして、たくさんの人に対応できるかどうか疑問です。むしろ、少人数でも、必ず毎年来てくれるリピーターの育成ってのはどうでしょうか？今回の研究会に来ていただいた方たちとか。それで、水窪にて食事とかでお金を落としていってもらおうと。

茂 大学生に間伐で単位付与ってのはいいですよ。これほどの大学生に対するモチベーションはないだろうなあ。しかも、必修にしちゃうとか。その流れから、さらに森林大学へと進むと。大学生たちがすごいところに来たなあ。そして、日本はこれからどうなっちゃうんだろうねえなんて話し合いになればと。

新 交通の便次第のような気がします。それと、大学生で木を切りたい人はけっこういるようです。

林 水窪での林業のレベルはどのぐらいなんですか？

新 日本自体に林業のレベルは低いのですが、その中でもありふれたレベルです。

古 林業にも競争力が必要ですよ。何かに特殊な用途に使えるというか。他とは違うものであるとPRできるとか。と、林業事業の効率化にも限界があるわけですし。ブランド化を図らないと。

茂 中長期的には、森林大学の方向性でしょうか。あるいは、文科省の認可をわざわざ取る必要もないですし。NPO法人ってのもあります。短期的なところでは、いかにモチベーションを付与できるか。パッションだけでは長く続かないですし。また、いかに活性化に興味を持ってもらうか。

古 たとえば、会社であっても社長がいくら言っても、誰もついて来なければダメなわけで。意識の共有が必要ですよ。とすると、この試みがその一つの契機となるかと。

茂 ビジョンの提起が先か、意識の共有が先か、鶏と卵で
すねえ。私は、水窪葬祭がもっとお金を稼いでくれた
ら、もっと人を雇って、いろいろなまちおこしプラン
を実行していつてくれればと。ローリスクローリター
ンという感じにてですが、と、まだ、ビジョンをまと
めるまでにはいかなんではないかと。本来ですと、
少なくとも、リーダー、つまり町長が提示して、そ
こから始まるような気もするんですが。

茂 最後にみなさんから一言お願い致します。

白 住民の意識が重要ですね。そして、協力も。

新 間伐の方法で、巻き枯らしですが。木の養分をとめて
枯らせるというもので簡単です。また、立ったまま枯
らせるので、倒れたりはしないです。そうそう、夏休
みに水窪に行きます。

林 森林大学ですが、社会人向けのものもありますね。ま
た。水窪だけでなく周辺地域の林業も考えるべきでし
ょう。あとは、学びにある価値のあるものに仕上げて
いく。

古 今回研究会参加の水窪プロジェクトへの賛同者で、木
を高く買うというのはどうかと。あとは、意識という

ことと。水窪の住民に危機感をもってもらふべきかと。
北 地球環境などのグローバルな部分とまちおこしという
水窪葬祭の両輪かな。とにかく、いろいろな人に興味
を向けさせる方向を模索していくべくでしょう。

阿 水窪の内部と外部の協力体制を構築が必要ですね。

榎 意識ですね。つまりは、住民が自分たちでやるという
ような。あと、地域として産業としての専門性・特化
が必要ですね。たとえば、「水窪といえば・・・」と
いうのがすぐに浮かぶような。

茂 今回の試みですが、学生にとってはインターンシップ
的な要素もあります。経営の手法を学ぶというか、社
会人がビジネスプランを立てるとしたらこういうふう
にやるということの初歩の初歩なわけです。しかも、
人がいない、お金がないというところからの立案です
から、やりがいあるかなあと。最後に、とにかく、み
なさん水窪を忘れないでください。折にふれて、思い
出してください。そして、そのときには、相互に情報
の提供をお願いします。

グループディスカッション C班

植村春香(公香)

■参加者 12名

- ・井本さん 岡山役所勤務
 - ・斎藤さん 栃木出身 東芝勤務
 - ・野仲さん タイボグラフィー
 - ・平澤さん 水窪議員
 - ・佐藤さん 明治大学学生
 - ・和田さん 茨城出身 司法書士(政治家志望)
 - ・菊地さん 富士通勤務
 - ・青木さん 静岡出身 起業準備中
 - ・須崎さん 香川出身 岡山大学3回生
 - ・谷中さん 静岡出身 松下政経塾
 - ・岩上さん 行政書士
 - ・植村 フリーMC
- リーダー：菊池氏

●水窪葬祭について

菊地 お金が中でまわっているが、外から持ってくるこ
とができるのでは？ 他の事業も適用ができるの
では？ というのがありますよね？

平澤 それに関しては今動いている状態です。それを、
隣の町にノウハウをわけて広めて行こうという
動いているところです。

●さて、次の事業について色々意見などあるでしょう
か？

植村 亡くなれたが多いので、葬祭業+お墓もセットで
販売はどうでしょうか？木をもっと有効利用する
のがいいかと思うんですが？

平澤 祭壇、棺おけなどに使ってます。祭壇を作って売
るということを提案したんですが・・・祭壇は作
るのが難しいので作り手がいらないです。棺おけは
簡単に作れるのだが、めでたいごとじゃないので
作りたくないといわれ、外から購入しているのが
現状です。

植村 手作り職人さんがいる町と提携して、その人を招
いて技術を学ぶというのはどうでしょうか？他の
地域でも、すでに若者に技術を提携しているとい
うところがあるらしいですが？

佐藤 同じような発想ですが、葬儀には必ず花が必要ですよ？地域で花を作ってもらって、そのお花を地域で買う。「ゆり」と言ったような花などがいいと思うのですが？

植村 お花代って高いですものね。

佐藤 山ゆりなんかかわいいと思います。球根なので、栽培が簡単で年中栽培できると聞きましたが？白いお花を中心に栽培をするという形はどうでしょうか？

植村 葬式で、関西は花輪じゃなく「しきみ」という葉なんですけど、そういうのも需要があるのではないのでしょうか？

野仲 今通信販売で、種だけを買ったりすることが出来ます。盆栽講座とかTVでやってますし・・・

和田 檜って栽培できないんですか？

平澤 やってないですね。家とか、風呂とか好きな方はいますよね。

青木 何年ぐらいかかるんですか？

平澤 30年～40年 杉で50年と言われてます。何十年先の商売なので、厳しいですね。やればやるほど赤字なので、先行投資は厳しいですね。

斎藤 林業でブランドってどんなのですか

平澤 木だと天竜。同じ木なのに、名前があるだけで売れるんです。

植村 もみの木は？クリスマスとか必要とか？

菊地 木が町の不良債権なんですよ？

平澤 今山を持ってる人は、税金ばかり払って大変です。

植村 もっと、木で何かできることを考えた方がいいんじゃないでしょうか？

菊地 人がいない。若者がいない。

平澤 65才以上、1300人ぐらいいますね。

植村 ログハウスのメーカーに売り込みに行くとか？

平澤 海外の方が安いというところがあるんです。実際やっているところはあったと思います。

菊地 何か産業を作り出せばいいと思うんですよ。

平澤 そういった何かがあればすぐに動くんですけどね。

(笑) 平らなところが少ないので、広域な土地が欲しいと思った場合山を削らないといけないし、それは自然破壊になりますしね。水窪の山はアスファルトにする特殊な土の山があるんです。それを売れば、何十年もお金になるんですが利益重視すると、自然破壊に・・・うーん。

菊地 不謹慎な意見ですが、年寄りを外部から受け入れお年寄り対象の町にしたらどうでしょうか？

平澤 水窪には老人ホームがないんです。隣り町と合同で作ったんですが、それも50塔しかありません。今度、水窪に作ろうということになっていたんですが、合併の問題が出てきて現在撤退する方向に向かっていますね。お金の保証がないんです。

佐藤 林業に絡んで、灌木の伐採とかやってるんですか？

平澤 森林組合とかですね。ほとんど採算がとれない状態です。お金がかかる場合は、そのまま放置されているのが現状です。

佐藤 灌木の伐採につきものの炭焼きとかありますか？

平澤 できました！

佐藤 炭焼きとかお年寄りがいいそうですが？

平澤 町の補助で施設を作ったんですが機能してるのかな？そんなに積極的ではないですね。

佐藤 都会から見れば炭ってかなり魅力的なんですよ。都会が投資して、炭となって返ってくれば魅力的だし、灌木の伐採にもつながるのではないのでしょうか？健康ブームで、もくさくえき、たけも流行ってますよね。

植村 竹はハゲに効いて、花粉症とかに効くんですよ。石炭とかもいいですよ。炭ジャンパー、炭石炭とかもいいですね。

佐藤 通販で買ったことがありますよ。素朴でいいと思います。葬儀で、炭を棺おけにひいて防臭剤に使ったりしないんですか？防臭剤変わり？

平澤 ドライアイスは使っていますが・・・うーん。

植村 最終的には、畑にまいて肥料になるらしいですね。炭焼き体験しに来てもらうとか？

佐藤 炭は需要が多そうですが・・・

菊地 炭って何でやるんですか？杉ですか？

平澤 色々研究しないとダメですね。

植村 障害者の施設で作って安く売ってますね。私よく買いますがいいですよ。

佐藤 高齢者事業とかありますか？リタイヤした人達の体験とかいいですよね？

菊地 あと・・・アクセスの悪さですね。WEB活用しないといけないですよ？

佐藤 九州と同じぐらい時間かかるのでビックリしました。

植村 そうそう、ホームページ見たんですがあんまり動きがないですね？

平澤 ドキッ！

植村 情報更新がないとつまらないですね。新しい情報

がなくても、写真や背景を変えないと見について
もつまらないですね。PR度が低い気がします。

平澤 水窪で、そういうのを下請けでやる企業がないの
です。市や商工会、商店街から受けてやらないか？
と言う声があるんですが、やる人がいないんです。

植村 あれ？もう、人がいないんですか？（全員大爆
笑！）プレゼンをした学生さん達に、ホームペー
ジ作りませんか？現地に行かなくても、それがひ
とつのインターンシップになるし、現地に行って
みたいという気持ちを持ってもらえるのでは？学
生をまきこむっていう手があるんじゃないんでし
ょうか？つまり、提携ですね・・・

特産品も、デジカメでドーンみたいな感じで掲載して
るだけで、おいしそ〜とか、他でもあるやん、み
たいなプロフェッショナルな方と、手を組むとい
う見せ方すればPR度が高くなると思います。

平澤 痛いところがありましたね・・・

佐藤 情報関係の高校とかないんですか？

平澤 進学と就職しか、うーん・・・

青木 ネットの普及率はどんなもんなんですか？一生懸
命やっても、水窪と外部の人がつながらないと意
味がないですよ？

平澤 3月にADSLがうちの町に入りまして一番に申
し込みました！

植村 つながったんですね？びっくり！（全員大爆笑！）

平澤 商工会で申し込みやって、接続とかうちに依頼が
きています。

-----あと10分という声が-----

平澤 お年寄りから電話がかかってきて、電源入れ方、
フロッピーはどこ？といったサービスでやってい
ますね。頼まれて行って、教えて、赤字ですよ。

斎藤 大変なんですよ〜。お年寄りのサポートが一番
大変ですね。

谷中 感想になってしまいうんですが・・・そもそも論で
すが、水窪に住んでいる人が、これからどうい
う風に生きていきたいのか？それが一番大切だと思
うんですよ。

菊地 ビジョンがないですね？

谷中 色々な過ごし方があるなかで、ここは諦めてみん
なバラバラになろうというありかたもありだと思
うんです。過疎がは悪いことじゃなくて、ひと
つの方法だと思うんです。

菊地 過疎というビジョンもある。

谷中 それでも、水窪で生きていたいと思うのであれば、

そこではじめてビジョンが生まれると思うんです。
そのビジョンにもいくつかあって、若者を集めた
いのか？老人を集めるというの、ひとつのあり
かたですね？そこで、方法論がまったく変わって
くるんですね。

もしそこで、何かしらビジョンが固まっているのであれ
ば、着手しやすいと思うんですよ。現場に行った
ことがないので机上の空論になるんですが、仮に
そこで暮らしていきたいと選択した場合に、はじ
めてまちづくりというのがでてくるわけですよ。

実際作っていくときにどうするかと現状を見てみると、
財政難の問題があったり、人口が少ない。人口が
少ないというとうどういった問題がでてくるかとい
うと、そもそも町を作る前に生活をしていく必要
がありますよね？その場合には、社会には役割分
担があるわけですから、人口が減ってくると、そ
の役割がなくなっちゃうわけです。さらに財政も
ないと。

そうすると、どこから資本収入をしなくちゃいけない。
もしくはその町で資本を生み出していかなくて
はいけないという論理展開がありますよね。

そこで人材を取り入れたいと思うのであれば、者なら若
者に魅力的な求心力を作らなくちゃいけない。老人
であれば老人に魅力的なものを作らなくちゃいけな
いという方向が生まれるので、町の中で一番ルー
トな部分がどうして行きたいというのが非常に重要
ですね。

菊地 私も同じ意見ですね。ビジョンですね。何が不足
して、何が足りないのかを明らかにしないんで
すよ。

谷中 もしそこが決まれば、詰めていきやすいですよ。
そこがブレていると、たぶんからまわりする原因
だと思うんですよ。それはどこでも同じです。

菊地 ビジョンは、町長さんにバーンと示してもらっ
て。（笑）

谷中 そこがビジョン、公約に掲げられれば一番強いと思
うんですよ。

青木 自分って田舎なんで・・・田舎もん根性っていう
か、こうしたいということがすべて否定するって
感じで、そこをうまく働きかけるっていうのがま
ず一番はじめだと思うんですよ。ビジョンを持っ
てないって人って結構多かったんですよ。何かや
ろうとすると否定的で、なんかちよつといいなと
言う事は、最初にいい思いをさせてあげないと彼
らはなかなかやる気にならない。

平澤 よくご存知で・・・いいアイデアを出す前に欠点
を見つけるのが上手なんですよ。それが必要で

すが、解決することが大切なんです、ネガティブな考え方が多いですね。意識改革が必要な部分がありますね。若い人はなるようになれみたいな、お年寄りはこのままでという、志の高い人が少ないって言うか・・・

菊地 そういう場合、ひっぱっていくしかないんですね。

---Cグループに天野さん乱入---

天野 いいアイデアでてる？

菊地 いい感じだよ。

天野 色々アドバイスもらって立ち上げたんですよ。

植村 コンサル料払った？

天野 払ってないんだよ。まだまだすみません、これからで。

佐藤 便利な生活をしたいと思っているのか？そのまま保存したいと思っているのか？どうなんですか？

平澤 便利な生活を求めれば自然破壊もあるわけで・・・矛盾してますよね？深く考えてないのかな？と思いますね。

須崎 予習とかしてきたんですが、田舎根性という変化を嫌う風潮があるのであれば、それを引っ張っていくリーダーが必要で。そのエネルギーが必要で、末端の政策がどう言う以前にそれが大切かと思います。

平澤 はい。おっしゃる通りで・・・

須崎 平澤さんが頑張ってる・・・

和田 あのと、選挙活動ってどういう活動されたんですか？

平澤 それを言われると厳しいくて・・・起業したいという気持ちの方が大きくて、帰ってきたと同時にやれやれと言われて・・・

<割愛>

このあと、残りの時間選挙活動のお話で盛り上がり時間切れとなりました。

グループディスカッション D班

- ・ 天竜川水系の中にある水窪のだからいくつかの水系をひとつにして漁業権を統合する。
- ・ メリットは、集客力が増すだろうということです。いままで、水系が別々でもともと釣り方として移動が多いのに、移動するたびに権利を買わないといけないのでコストがかかるので、それを解消しようということ。
- ・ もっとそれに、売りやオプションをつけるとなると、ということがあるか。

漁協に付加価値をつける、

- ・ 僕も釣りは好きなのだけど、釣りをやる人は限られる、父親が一人や友達と行くことが多い。取り残された家族はどうなるのか。家族と一緒に利用できれば良いのではないかな。
- ・ ホウライジ町の話。キャンプ場がある。ロッククライミング、手打ちそば、工芸品を作ったりできる所がある。
- ・ 水窪にもキャンプ場があるので利用してはどうか。
- ・ (釣りやキャンプの時期が重なる。)
- ・ 夏休みバトミントンクラブがあった。弟が小学生のときに親と釣堀に行っていた。やはり子供はそういうの大好き。そこで、”親子で釣りツアー”などを市で企画すれば(営利目的ではなく・・・)、道具もあって、釣りを教えてくれる人がボランティアなどでいけば、初

心者でも安心してできる。

- ・ 小学生ぐらいなら、山やキャンプなど好きだし釣りにも興味があると思うので・・・
- ・ 家族を連れて来るというのは良い案。
- ・ 釣りと時期的におんなじもので、父親が釣りをしている時に、家族が離れずにいるか。
- ・ 又は、近くで安全に遊べる娯楽があれば良いのではないかな。
- ・ 対案で、溪流釣りは、山の奥のほうでヒルなどがいるので危ないのではないかな？！
- ・ 安全であれば問題はないと思う。
- ・ しかし安全な場所で魚が釣れるかどうか・・・
- ・ 溪流釣りなどは、家族で行くものではない、別の時間を楽しく過ごせるものがあると良い。つかみ取りとか？キャンプ場の近くに作るとか。
- ・ 家族連れがいける場所(溪流)とかはないのですか？
- ・ 溪流釣りというのは専門性が高く、なかなか釣れない。テクニックが要求される。本格的な溪流釣りになると、家族と一緒に行くのは無理なので、やはり別のところで遊べるというのはいいと思う。
- ・ 溪流釣りにこだわらないで、家族で遊べるような場所があるといい。
- ・ 飯がなにかでも持ってきて、朝早くから釣って、か

えってしまうので、町のためにならない。

- 年に1回川をせき止めて掘み取りみたいなのもやっているが、いつもやっているものでもないから……。なにかをリンクさせるとよくなってくるんじゃないか。
- 温泉ってどうなんですか？ここに温泉って書いてありますけど。
- 釣りやって帰りにひとつ風呂というのもいいんじゃないか。
- この施設を利用したらタダ券を渡すとか。
- 水窪町ってふるい建物とかは残ってますか？岐阜県に日本大正村とかあるじゃないですか。昔の大正時代の古い建物をPRして観光地になっている。長野県のツマゴジョウなんか。自然のそのままの建物なんかあれば、それをちょっとPRかなにかしていったらどうか。
- 城跡の桜・・・杉ばかりで駄目。水窪祭りはどうだろうか？
- 愛知県安城市、安城七夕祭りで県内各地から人が集まってくる。祭りのイベント的に面白い。いろいろなパフォーマンスをしている。ミス七夕。近隣に住んでいる方。その人たちを見るために来るひともある。
- 漁協権のとうどう絡めると考えるとコラボレートしにくい。漁協権が統一され、それを十分に釣りする人が楽しいのと、収益機会にするために家族に来てもらう。そのためには滞在時間を延ばす。ということは泊まってもらうことが一番。指定の温泉だったら多少割引をするとか、自由に料理してもらえとか。
- 釣った魚を料理してくれるような旅館があって、そこが味もいところだったら自然とお客さんはくるだろう。
- そば打ち教室なんてあったね。
- つりの人は一日中楽しんでいられるが、それ以外のいきなり来たような人はにとっては、マップなりがないと何もしようがない。
- ホームページで魚釣りランキングなどを開催し、競わせることによって溪流釣りをやる人をより楽しませる。
- 中日新聞にそういったものはあるといえはる。
- 釣り人口はどれだけいるのか？88枚の年間釣り券が売れているということは88人？まずはこの人数を超えるようにすることが目標。
- 飯田のほうにラフティングというのがある。このあたりは流れがけっこう急である。利益を上げられるのではないかな。
- ラフティングやカヌーもあるが、それらを大々的に

家族にとつての娯楽にしまうと、下手をすると釣り人に迷惑をかける可能性がある。

- 自然を壊す遊びは良くない。やっぱり天竜川水系というわざわざ遠くまで来て大自然を満喫する原始的な遊びでも良いかもしれない。自然を守ると意識が必要。
- 最終的には収益主義的なものではなく、人が来て満足ができて、自然環境を壊さなければオッケ。収益を確保しないでやってしまうと結局提供し続けることができなくなる。
- 川にはいろいろな権利がある。漁業権、水利権もあるし取水権もある。一概に川を管理するというと難しい。きつともめると思うのは配当金問題が非常に問題になってくると思う。TMO まちづくり会社を、川を利用する町で団体を作ってみて、それではどういう権利を譲ってもらえるのかという交渉をする。川全体を通じてまちづくりをやってはどうか。今のままでやっても漁協と話もめる。いくらほしいとか、もっとうちはもらっていたとか・・・。
- そうなるとあとは川の管理者が問題。
- 水窪川の管理は2級河川？県？
- 共同体というのは、町が主導になると第3セクターになって足元を見られやすい。やはり町民なり村民がお金を出し合って会社を作るべき。水系全体を通してどういうまちづくりをしていくのかという会社。窓口として町が、県との交渉などをやればよい。やることは民間でやればよい。
- 市町村合併があるから、漁協というのはひとつの区になるところがあって、ちょうどまとめるのによい時期。
- 実際配分というのはどういう風に考えているのか？
- 独立性を保ちながら統合する。配分は平等。
- しかし、平均して分配すると、現在儲かっているところが反発するだろう。
- 現実的な問題はそこ。問題になるというかいままで各地域の儲けや収入レベルがあつて、まずはそこあげですよ。ひとつのブランドにまとめた方がいいけど、おのおのがどれだけ資産を提供し、どれだけの特権を得ることができるのか、やっぱり計算しちゃうし、そのくらい地元でもの——つ管理していた人たちだからその思い入れを考えるとどれだけ全体のブランドに対しての求心力があるかということ、平等な仕組みを考えなくちゃならない。いろいろなオプションをつけた場合、いまは漁業権というのを中心に動いているけど、では割り引きをつけようと思ったときに、同じ一律で割り引きをするのか、ある程度やっぱりこの辺にかたまるといふのであれば、遠くを割り引

いてあげるとか、水窪だけに来ないというようではだめ。水系全体をもちあげる。そうしないと統一した意味がない。

- 溪流釣りはマニア。コアな人が多い。
- お金を払わずに釣りをしている人もいる。
- 漁協ってどういう組織なの？
- 民法の組合組織。
- 組合でうちの町だけなんだけど、町からお金をもらっている。うちらはもらわないとやっていけない。
- 少ないと思うんですけど、年間必ず80人は年券を買う人がいる。毎回来る人たちにはなにか魅力がある。何かがあるから買ってくれる。その人たちのメリットをチケットを買ってくれた人にアンケート協力とかしてもらって調べてはどうか。コアの人たちの楽しさを奪うことってというのはマイナスになってしまうと思う。
- 水窪に長野に突き抜ける道が開通したら、いま北遠だから面白いと思ってきている人にとっては、交通の便が良くなってしまうとコアな人は来なくなってしまうかも。
- 水窪の人を知らないコアな人たちを集めるようにしたほうが良い。新聞などの広告媒体を利用したらどうか。ホームページを作成して、検索に掛かるようにしておくことは非常に大切だと思う。何かインターネットとかで流したり、検索で引っかかる引っかからないでは全然違う。
- 水窪がメジャーになったらどうなるのかということも考えないとならない。
- まずは溪流釣りのコアな人にいまよりも着てほしい。家族も一緒に来てほしい。このひとつがメリットに感じることはなくさない。物理的にアクセス可能な、土日使えば十分これの人たちが、土日を使って着ているのか？いまは着ていないだろう。そういう人たちへの情報発信をどうするかは考えないとならない。
- ターゲットはだれかというのに、溪流釣りの人の家族をいれるのはいいと思う。一見さんだけになったらやっぱり続かない。
- じゃあその1ステップとして今来ている人に、水窪およびその水系の魅力はなにかというアンケートをとり情報収集をし、それをベースに今後釣りとして着てほしい人たちのターゲティングをしたうえで、どういうオプションをつけていくのかを考えないとならない。やっぱり、収益機会とか考えると、どうしても尾ひれをつけてしまうのだけど、一番大事に今までの人たちを大切にすることによってオプションがあれば。
- チケット高くてもいいから、そこはあなたの世界だよという風に価値をあげたほうが着たがるかもしれない。

い。高級感を与える。水窪の溪流がすごくいいんだというイメージ付けをすれば、お客さんもくる。それが安定した収入につながる。家族に親しめるようにする。そして子供が成長したときに溪流釣りに入れるようにする。釣りを楽しめるという世界を作ってもいいと思う。

- シルバーカードとかゴールドカードとかを作ってはどうか。
- 溪流をきっちり管理して、予約制みたいな感じにする。
- 流水系のブランド化はいいが、動かないといけないという特性が問題かもしれない。行動範囲をブランドを統一したのに規制してしまう。本来の意味と逆の方向へいってしまっていないか。
- 値段は上げたほうがいいのかなということがある。魚の数も限りがあるし、値段を下げてたくさんきてもらっても将来魚がいなくなってしまうのは困る。溪流釣りは少ない人数のほうがよい。
- 家族が来て宿泊するところが多いほうがよい。
- 今後新規を増やすのかそれとも既存のお客さんに頼っていくのかという、そこで路線が変わってしまう。収入がどうのこうのと考えてしまうと、そうすると新規開拓。人が来なくては仕方がない。釣りはインターネットで情報公開して人を集める。個人的にはやはり合併するなら合併して取り組んだほうがやりやすいだろう。水窪も含め、他のところと一緒にやっていかなければ成功しないのではないかな。
- 新規開拓だったら収入を上げるのに2つ方法がある。コアな既存客をある程度までは絶対量を確保した上で新規を増やす。もうひとつは、まわりにつれてきてもらう。家族とか、それこそ完全に遊び場所など、水系ごとのコントロールができるのであれば、いままでのコアの人たちの自由度も確保される。全体のパッケージはしっかりそれに見合う形で考えていかなければいけない。そうしないと、どうしても本来求めていたものが失われる可能性がある。
- キャンプ場の中で親子のふれあいを大切にしたいというのがあったんですけど、ある程度二日とか、コアな人がキャンプ場で過ごしてくれるとすれば、ある程度オプションとしては考えられる。遠ければ遠いほど自然はあるけど、遠ければ遠いほど時間の制約がある。楽しみなんだけど、短い時間でメリットがでるといものがないと。
- 交通の便は良くなるのですか？
- 国体があるから良くなりつつある。
- 公共交通機関をうまく使えば、名古屋から2時間ほどでこれる。

- 合併の話で大規模開発とか入りそうなんですかね？
- それぞれの地域で異なると思うが、市として予算をつけてくれるだろう。
- それか見捨てられる。
- 合併すれば交付金が出てくるんですよね？
- そう。特例債も発行できるしね。

資料⑥・受講生感想

履修学生の感想 生田農学部

- ✓ パワーポイントでの発表の準備に物凄く時間を費やしてしまい、痛かったです・・・。でもキツイながらも実践的な授業で、自分が上達しているような気分になりました。後期もよろしくおねがいします！
- ✓ 前期の授業はパソコン初心者の私にとってかなり高度に感じられました。しかし、社会に出るためには必要な知識だと思うので後期も授業についていけるようがんばります。
- ✓ 私は全くのパソコン初心者なので、知識皆無な私にとってこの授業はかなり驚異的な早さを感じてしまいました。でも、将来役立ちそうな授業だと思います。授業について行けるように頑張りたいです。そして、水窪についてかなり詳しくなりました。
- ✓ 大変でした。がんばりました。そしてこれからもがんばります。
- ✓ 思っていたよりも辛かったです。ほかの授業よりも辛そうなので自分の力にしたいです。
- ✓ 今まで word とインターネットくらいでしかパソコンを活用していませんでしたが、今回授業に参加して今まで使ったことのないことを学べてよかったと思いました。水窪の町おこしについてはアイデアを出すのに悩みましたがこのような機会がない限り水窪町を知ること、町おこしについて考えることもなかったと思うのでよい体験になりました。後期もがんばります！
- ✓ 私は最初情報基礎論という授業はただパソコンで文字を打ったりするだけの簡単なものだと思って甘くみていました。しかしそれは大きな間違いでした。excel や powerpoint など私がパソコンの中で初めて操作するようなものばかりでかなり苦戦しました。他の情報基礎論の先生の授業をとってる人の話とかを聞いて、正直最初は選択失敗したかな、と思ったりもしましたが今となっては川島先生の授業で良かったです。課題はかなり困難なものばかりだったけれど、やりこなせば今後にとっても役立ちそうです。後期も単位を落とさないようにがんばります。
- ✓ 授業について。一言で言えば、難しかったです。特にパワーポイントは本当に大変でした・・・。でも、何とか単位が取れて良かったです。前期の授業では、パソコンに今まで知らなかった機能を使いこなす、とまでは言えないけど、活用できたのでは？と思います。特にエクセルは他の授業でのレポートに役立てられたと思います。後期の授業も頑張りたいです。
- ✓ 前期の授業はあまりパソコンに関する知識がなかったので授業を受けてわからないことが沢山あったがやっていくうちにいろいろなことがわかってきたのですこし楽しくなってきた。水窪町の発表は調べるのが大変だったがいい経験になった。後期も頑張ります。
- ✓ 最初はワード、エクセル、パワーポイントを全部使うということでかなり戸惑ったのですが、終わってみるとある程度使いこなせるようになって本当によかったです。これからもためになる授業をお願いします。
- ✓ 普段パソコンを使わないせいか、この授業はハイレベルに感じました。もっと家でパソコンを使えばよかったと思い、夏休みは、インターネットをけっこうやりました。前期課題のパワーポイントはかなり大変でしたが、満足のいく仕上がりだと思いました。図書館にかよいつめ、両親に相談したりして、何度も発表の練習しました。後期もがんばりたいと思います。
- ✓ パソコンを大学に入ってから使い始めた僕にとって川島先生の授業は少々きついですが、その分パソコンが少しは使えるようになりとても意義のある授業でした。
- ✓ 前期課題のプレゼンは、初めてのことでしたが、いい経験になりました。資料の準備や原稿作りに戸惑い大変でした。後期は、もっとまじめに授業に参加しようとおもいます。
- ✓ パソコンをちゃんと使うようになったのは大学に入ってからだったので、授業についていくのはホントに大変でした。グラフや表を作るのも大変だった

けど、なんといっても水窪についての発表が一番大変でした。でも、パワーポイントを作るのは楽しかったです。後期もなんとか頑張って授業についていけるよう努力したいと思います。

- ✓ 授業の進度がはやくて始めはついていけるか心配でした。でも、パソコンをたくさん使う度に慣れていき楽しくなってきました。水窪の町おこしを考える課題は大変だったけど、いい勉強になったと思います。
- ✓ 今まで、パソコンではゲームと Word 位しか使ってなくて、すごく勿体無いことをしていました。まだまだ基礎だけど、少しはパソコンを使えるようになったと思うので、これからはもっと色々な事に活用していきたいです。後期は、HP を作るということで、とても楽しみです。後期もがんばります。
- ✓ 自分は今までパソコンというものが自宅にありながら、全く使えずパソコンがただの箱の状態でした。しかし、前期の授業を通してパソコンに触れる機会が増え2日に1度は自宅のパソコンでインターネットなどを見るようになりました。インターネットを見ていくうち、パソコンの素晴らしさをわかることができました。後期の授業で、またいろいろな事を学んでもっともっとパソコンが使えるようになりたいと思います。
- ✓ パソコンの事は授業を受けるまで全然分からなかったのですが本当に基礎から教えていただいて少しは出来るようになったと思います。それに水窪の町おこしの計画など興味深かったです。
- ✓ 大学に入って初めてパソコンにふれました。今現在情報化社会と言われ、誰でもパソコンができて当たり前なのに情報基礎論の授業を取るまでマウスの使い方もわからなくて不安だったがなんとか前記を過ごすことができよかった。
- ✓ 大学に入学して、この授業を受けるまで、パソコンのキーボードは、いつも片手でたどたどしく打っていました。前期の授業が終了して、いくらか早く打てるようにはなりましたが、まだまだ人よりもおとり、授業もこれからついていけるか不安です。でも、前期総合課題は、大変でしたが、自分なりに精一杯できて、楽しかったです。
- ✓ 前期はとにかく、ついて行くのにとっても大変でした。でも今まであまり自分からはパソコンに触れなかったのですが、夏休み中も自分で色々習ったことを

ためしたりできて楽しくなりました。これからいろいろな事を学んでいきたいとおもいます

- ✓ 生粋のメカ音痴です。この授業をとったのはその逃げに終止符をうつためでした。毎回分らないことだらけで死にそうですが、自分で本を買ったりして、立ち向かうことができるようになりました。
- ✓ いろんなことに興味ができましたし、やりたいこともできました。具体的な使い方もそうですが、そういう意識の面で得られたことが大きいです。もちろんまだ死にそうです。胃痛です。でもがんばります。もっとできるようになりたいですから。そういえば、浜松の駅の広告映像に水窪のコマーシャルが流れていましたよ。がんばっていらっしゃるようです。
- ✓ 前期は本当に疲れました。コンピューターは初めてに近いのに、よく解らない応用課題ばかり出されて正直途方にくれました。しかし授業の内容が実社会でできなくてはならない必須のものばかりだということはひしひしと伝わってきたので本当に(それなりに)よく頑張ったと思います。それでもまだ解らないこともあります。何とかしてマスターしていきたいと思います。これからも(できるだけ詳しく)よろしくをお願いします。
- ✓ パソコンの機能を使うはあたりまえで、それを使ってなにをするかを考えた授業は、理屈ではわかっていても実際はかなりハードでした。しかしそれがあたりまえな社会なのだと考えると、頑張ろうと思えました。後期も頑張っていきたいです。よろしくお願いします。
- ✓ 授業はとっても難しかったです。けれど、パソコンをほとんど使ったことがなかった私が、よくパソコン教室を利用するようになったのは、この授業のおかげといえるでしょう。しかしやっぱり授業の進むスピードが速いので、後期はもっとゆっくり進めてほしいです。
- ✓ はじめてやる事ばかりだったので戸惑い戸惑いの連続で、どうにかついていったという感じです。それでも普段インターネット以外でパソコンに触れることもないので、いい機会だと思って頑張りました。水窪の課題は、普通の情報の授業とは別の意味で頭を使い、やってる時は少し苦痛にも感じましたが、終わってみればいい経験でした。後期はもう少しゆっくりやっていただけると嬉しいです・・・。
- ✓ 授業はたまに専門用語のような言葉がわからない

時があります。後期はしっかりと理解できるように、勉強していきたいと思いました。前期の課題は内容的に少しハードでした。インターネットを使ったのも初めてだったので...。でも学校の授業で色々体験できて楽しいです。後期の課題はホーム・ページ(?)とゆうことで、少し楽しみです。これからも気合入れて、全出席を目指します。

- ✓ 初めて情報基礎論という授業を受けてみてパソコンの機能が全くわからなかったんですが、少しずついろいろな機能を理解出来るようになってよかったです。授業は、少しペースが早かったと思います。少し自分では大変でした。パソコンにまだ慣れていないのでキーを打つのにとても時間がかかってしまったので、ブラインドタッチが出来るようにしたいです。授業でわからないところはきちんと教えてくれたので授業についていけてとてもよかったです。後期の授業はホームページ作りをするということなので、がんばって授業を聞いて作っていきたいと思います。
- ✓ 川島先生の授業は、社会に出てから応用が聞く授業だなと思いました。パソコンを持っても、エクセルやパワーポイントを使ったりしないので、とてもいい機会になりました。前期の課題は、本当に苦労しました。でも、水曜の活性化について話し合うだけでなく、本当に活性化に向けて活動しようとしていることはすごいことだと思います。後期はHP作りで、前期よりさらに大変になりそうですが、がんばりたいと思います。
- ✓ 授業が早くてついていくのが大変だったけれど4月に比べ見違える程パソコンが使えるようになりました。Excelをもう少しみっちりやりたかったです。
- ✓ 今まで、家にパソコンはあったけれど友達とメールをしたりHPを見るくらいしかしてなかったので、この授業をとってワード、エクセル、パワーポイントの使い方がわかるようになったり、実際にプレゼンテーションをしたりしたことは、いい経験になりました。このクラスは課題が出たりして少し大変だなと思うことはあるのですが、その内容は絶対将来直接的に役に立つことだと思うので、後期もがんばりたいと思います。
- ✓ 今までパソコンはほとんど使ったことがなかったので、ワードやエクセルをやるにしても戸惑うことが多かった。」しかも先生の授業は結構はやいのについていくのが大変だった。パソコンを自由に使いこなせるようになると将来も役立つと思うので後期も頑張りたい。
- ✓ パソコンは今までインターネットしかやったことがなかったので、前期の授業はとても新鮮でした。これからは、もっとパソコンを使いこなして社会にでも困らないように頑張りたいです。特に、インターネットでは情報が漏れないようにするにはどうすべきか等、個人情報をどうやって守るかをよくわかった上で行いたいと思いました。
- ✓ 前期の授業は進むのが私には早過ぎてついていくのに精一杯でした。でも授業に出たおかげでパソコンについて全く知らなかったのに、ほんの少しだけわかるようになったのでよかったです。水曜についての課題は作るのが大変だったけど、後期ではホームページ作成ということなのでさらに難しく大変そうですが、授業をしっかりと聞いて頑張りたいです。
- ✓ 予想以上にやることが多くて少し驚いた。でも、けっこう楽しかった。
- ✓ 意外とやることが多くて驚いた。知らなかったことが多いのでけっこう面白かった。
- ✓ 情報に関すること意外にも、政治関連や先生の近況報告(?)などが聞けて結構ためになってる!!ということに最近気付いた。もっと早く気付けば良かった。前期は手を抜きすぎたので、後期は心機一転、全力で頑張ります。授業の感想として、プレゼンテーションの時間をもっと欲しかったが一つ。それと課題の提出はいつまでにどれどれをやってくるといことをはっきり言って欲しいがもう一つ。一度混乱があって、友達が徹夜が無駄になったとぼやいていました。注文が多くてすみません。でも先生の授業は最高です。大変なくらいの方が絶対為になる。グラフ作成と水曜町の調査、プレゼンテーションは個人的におもしろかったのもう一度やってほしい。